

藤山一雄

前任二等、監察院秘書官、總務處長、官衙建築計畫委員會委員、山口縣在籍

君は山口縣人にして大正五年東京帝國大學法科大學經濟學科を卒業し神戸湯淺貿易會社社員下關梅光女學院教授福昌華工會社調査役等を経て昭和四年歐米港灣労働事情調査に出張す大同元年滿洲國成るや實業部理事官に任じ總務司長に補せられ尋で現職に轉ず傍ら官衙建築計畫委員會委員たり著書に「清貧」「寒盤抄」「心境の世界」「南山雜記」群像「オコオン」等數種あり(新京市北安南胡同九〇二電三五四八)

古坂健吉

薦任八等、交通部技正、郵務司工務科長長野縣在籍

君は長野縣人にして夙に旅順工科大学を卒業し關東應運信局工務課勤務を経て滿洲國成立後其招聘に應じ交通部技正に任じ現時郵務司工務科長たり(新京市馬濠門外交通部郵務司工務科内電四二四五)

古田正武

從四位勳四等、簡任一等、司法部總務司長、岐阜縣在籍

父 庄次郎 安政四、六生、岐阜現
母 ふで 安政五、七生、岐阜現
妻 乃理 明二九、八生、岐阜
男 稻夫 青木達四郎長女
大六、七生

君は岐阜縣人古田庄次郎の長男にして明治二十一年一月を以て生る大正三年東京帝國法科大学獨法科を卒業し同五年判事に任じ次で檢事に轉じ東京地方兼同區裁判所檢事に補し十二年兼司法省參事官に同十三年兼警察講習所教授に任じ司法部記官刑事局勤務となり更に東京地方裁判所檢事兼警察講習所教授大審院檢事を経て大同二年十月滿洲國に聘せられ司法部總務司長に任じ現在に至る昭和三年歐米各國に出張す家族は尙二女稚子(大一〇、七生)ありA一七(新京市司法部總務司内電四一〇九、九一一「留守宅」東京市杉並區荻窪二ノ八三電荻窪二九三五)

古海忠之

正六位、薦任一等、國務院總務廳理事官、人事處給與科長、東京府在籍

妻 伸 明四〇、二生、兵庫

男 建一 山下文雄妹 昭八、七生

君は山形縣人古海精藏の弟にして明治三十三年五月五日を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す大正十三年東京帝國大學法學部政治學科を卒業し高等試驗行政科に合格す同年四月大藏屬に任じ昭和二年司稅官に任ぜられ字都宮稅務署長幸橋稅務署長を経て營繕管財局事務官に轉じ昭和七年退官し同年滿洲國建設の後其招聘に應じ國務院總務廳事務官に就任し主計處總務科長を経て人事處給與科長に補せられ康徳元年七月同理事官に陞る(新京市新發屯官舎電三九八五)

聞博

薦任七等、吉林省公務事務官、警務廳警務科勤務、奉天省人

君は又奉天と稱し奉天省海城縣人にして千八百九十六年(光緒二十二年)を以て生る千九百二十二年國立北京法政大學を卒業す曾て奉天東邊道尹公署内務科長に進み次で熱河省天山縣長遼東省建設廳第二科長等に任じたる事あり大同元年吉林省公署事務官に任ぜられ警務科長となる(吉林市老普隆胡同四六)

へ之部

邢克莊

元熱河省政府委員兼建設廳長、奉天省人

君は又敬如と稱し奉天省盤山縣人にして千八百八十二年(光緒八年)を以て生れ夙に奉天高等巡警學堂を卒業す始め政界に志し奉天臨時省議會議員衆議院議員に選舉せられしが後吉林依蘭道尹に任じ千九百二十四年奉天東邊道尹兼安東交涉員に轉じ其後鴨綠江採材公司總經理より熱河省政府委員兼建設廳長に轉じたりしが千九百三十年辭したる尙氏名と字の原音は Ping Ko-chuang 及 Ching-ju なり

米濟遺爾吉

薦任八等、興安西分省事務官、民政廳勸業科長、興安西分省人

君は興安西分省科右前旗人にして千九百七年(光緒三十三年)を以て生る夙に奉天東北農林專科學校農科を卒業す曾て洮南縣教育局勤務同縣立第一校長たりし事ありしが後興安西分省事務官

に任ぜられ民政廳勸業科長たり(興安西分省民政廳内)

邊國瑞

錢鈔業奉天取引所仲買永豐銀號出資者兼支配人、奉天省人

君は奉天省海城縣人にして千八百九十三年(光緒十九年)を以て生れ早くより實業界に入りて金融業に従事すること久しく且つ經驗深し九百二十八年千吳玉麟邊選三等と共同出資を以て奉天取引所仲買錢鈔業永豐銀號を開設し自ら支配人となる市中主要銀行と取引を有し現時取引高年額約一千萬元に及ぶ(奉天市附屬地浪速通二七永豐銀號内電四二四一五・二六三九)

邊樹藩

薦任七等、哈爾濱市政公署事務官、行政處勤務、奉天省人

君は奉天省瀋陽縣人にして千八百九十七年(光緒二十三年)を以て生る千九百十九年奉天高等師範學校を卒業す曾て中東鐵路扶輪傳習所訓育主任たりし事あり大同二年哈爾濱市政公署事務官に任じ行政處勤務となり以て今日に至る(哈爾濱市政公署行政處内)

邊樹芳

薦任八等、哈爾濱市政公署事務官、總務處第二科長、奉天省人

君は奉天省瀋陽縣人にして千九百年(光緒二十六年)を以て生る千九百二十年奉天省第二高級中學校を卒業す曾て奉天同澤女子中學校事務員を経て東鐵扶輪傳習所教員より東省特別縣市政管理局會計員たりしが後轉じて哈爾濱市政公署事務官に任じ總務處第二科長となり今日に至る(哈爾濱市政公署總務處内)

木之部

保 聯 亨 薦任八等、民政部事務官、土地局審査處長、奉天省人

君は又象乾と稱し奉天省瀋陽縣人にして千九百二年(光緒二十八年)を以て生る夙に旅順工科大學專門部採礦冶金科を卒業す曾て東三省兵工廠審檢處技師に任じ後兵工學校教官たりしが千九百三十二年滿洲國成るや民政部事務官に任ぜられ土地局審査處審定科長となり今日に至る(新京市大經路民政部土地局審査處審定科内電四〇八九)

葆 康 簡任一等、民政部大臣代理部務次長、奉天省人

君は又鏡泉と稱し奉天省遼陽縣人にして千八百八十二年(光緒八年)を以て生れ夙に奉天陸軍講武堂を卒業す千九百二十年察哈爾財政廳長に任じ後興業銀行總辦を経て千九百二十三年奉天稅捐局長に轉じ更に奉天察哈爾方面の官

界に入りしが張景惠の東省特別區長官となるや同長官公署政務廳長に擧げられたり又曩に中東鐵路理事會特務委員たりし事あり千九百三十二年滿洲國成立と共に張景惠等と擧げられて民政部次長に任ぜられ東省特別區地畝管理局長を兼任す現時民政部大臣代理部務次長にして鴉片專賣籌備委員會副會長及逆産處理委員會臨時訂立條約準備委員會官衙建築計畫委員會國都建設計畫諮問委員會積缺善後委員會等の各委員として各方面の重職にあり尙氏名と字の原音は Pao Kaong 及 Ching-chuan なり(新京市室町四ノ一二電話三五〇一)

葆 定 薦任六等、興安北分省公署理事官、總務廳會計科長、興安北分省人

君は又孟步洲と稱し興安北分省來倫右翼旗人にして千九百二年(光緒二十八年)を以て生る千九百二十四年國立北京大學豫科の出身なり官界に志し曾て呼倫貝爾副都統公省會計科員となりし事あり千九百三十二年滿洲國成立するや興安北分省公署事務官に任ぜられ總務廳會計科長となり康德元年七月同署理事官に昇任し以て今日に至る(興安

北分省總務廳内)

方 毓 愷 薦任六等、奉天省公署技佐、民政廳工務處長、安徽省人

君は安徽省人にして夙に上海同濟大學を卒業す曾て滿洲に至り東三省兵工廠技師たりし事あり千九百三十二年滿洲國成立後奉天市政公署に入り技佐に進み民政廳工務處長に任ぜられ今日に至る(奉天省公署民政廳内)

包 允 榮 薦任七等、民政部事務官、總務司秘書科勤務、江蘇省人

君は又幼穉と稱し江蘇省丹徒縣人にして千八百八十五年(光緒十一年)を以て生る千九百九年廣東法政學堂に學び早くより官界に入り廣東財政公所總務科長を経て安徽省長公署勤務たりしが滿洲に至り曾て哈爾濱特別區長官公署秘書たりし事あり千九百三十二年滿洲國成立後民政部事務官に任ぜられ現時總務司秘書科勤務たり(新京市大經路民政部總務司秘書科内電四〇七二)

包 克 臣 礦化塗料商公合興經營、山東省人

君は山東省蓬萊縣人にして千八百九十九年(光緒二十五年)を以て生る夙に

實業界に入り滿洲に至りて身を立て久しく實務に従事せる經驗を以て千九百二十七年奉天に礦化塗料商公合興を開設す市中内外銀行と取引し大阪上海天津方面より仕入れ販路を奉天紡紗廠東興染色公司其他に有し業績漸次隆昌に向ひつつあり賣上年額三十萬元に及ぶ(奉天市中街老天胡同路東公合興内)

包 善 一 前興安警備第一軍長

君は早くより内蒙古地方にありし勢力家たりしが千九百三十一年滿洲事變勃發するや逸早く獨立を宣言して同志を集め新國家建設運動に奔走し時局に善處するところあり千九百三十二年滿洲國成立するに及び興安警備第一軍長に任じ交通不備なる内蒙古の警備治安に當る尙氏名の原音は Pao Shan 一なり(内蒙古大耕子)

包 尼 雅 巴斯爾 薦任六等、興安南分署公署理事官、民政廳勸業科長、興安南分省人

君は又沛霖と稱し興安南分省科爾沁左翼後旗敖里寨屯人にして千八百九十八年(光緒二十四年)を以て生る千九百

二十二年奉天省立高級中學校を卒業す曾て内蒙古自治軍軍法處副處長たりし事あり千九百三十二年滿洲國成立後興安南分省公署事務官に任ぜられ民政廳勸業科長たり康德元年七月同署理事官に昇任し以て今日に至る(遼源縣南大街双益地局)

彭 金 山 陸軍中將、第二軍管轄兵第三旅長、江西省人

君は又麗生と稱し江西省奉新縣人にして千八百七十五年(光緒元年)を以て生る夙に東三省陸軍講武學堂を卒業す早くより軍界に入り吳俊陞の下に累進して民國成立後奉天後路巡防騎兵第二營長より千九百十七年中央陸軍第二十九師第百十五團長に任じ次で騎兵第二十九團長を経て千九百二十二年黑龍江陸軍騎兵第一旅長となり奉直戰後騎兵第四旅長に轉じたる後千九百二十四年黑龍江全省剿匪總令を兼任し爾來黑龍江游擊隊總司令黑龍江省興東鎮守使を経て千九百三十一年蒙邊陸軍騎兵第七支隊長に轉じ新國家成立と共に洮遼警備副司令官洮遼警備騎兵第四支隊長等に歴任し大同二年奉天警備軍騎兵第

彭 孔 門 吉林省敦化縣長、江蘇省人

君は江蘇省吳縣人にして千八百八十年(光緒十六年)を以て生る夙に吉林法政專門學校を卒業す官界に入り千九百三十一年吉林省敦化縣科長たりしが滿洲國成立後擧げられて同縣長に任ぜらる(吉林省敦化縣)

蓬 世 隆 薦任七等、哈爾濱警務廳正、正陽警務署長、奉天省人

君は又輝東と稱し奉天省瀋陽縣人にして千九百一年(光緒二十七年)を以て生る千九百二十四年北京朝陽大學法律科を卒業す曾て東省特別區警務官高等學校教諭たりしが其後同特別區警務第五署長に任ぜられし事あり千九百三十二年滿洲國成立後哈爾濱警務廳署長に任ぜられ同警務廳正陽警務署長となり以て今日に至る(哈爾濱道裡斜紋九路得一)

鮑 觀 澄

特任、外交部勤務

君は又冠春と稱し江蘇省鎮江縣人にして千八百九十七年(光緒二十三年)を以て生れ夙に北洋大學を卒業す曾て外交部財政部長等に在職し千九百二十二年張作霖の顧問となり保境安民策を進言するところあり翌年上海電話局長に任じ千九百二十七年國民軍の北伐に従ひ天津に至り白崇禧秘書長となり千九百三十年安徽省長秘書に任ぜられしが同年末南京政府より突如逮捕せられ張學良の爲めに奉天に於て投獄せられしが千九百三十一年滿洲事變後釋放せられ天津に赴く再び逮捕の危に會ひしが免れて滿洲に入り新國家建設に奔走努力せり千九百三十二年哈爾濱市長に任じ同年夏滿洲國最初の駐日代表として渡日し國際的諸懸案に善處するところありしが大同二年五月駐日代表を退き歸國後特任官を以て待遇され現時外交部に於て特殊任務に當る尙氏名と字の原音は Pao Kuan-chang 及 Kuan-chin なり(新京市)

麗 作 屏

黑龍江省公署參議 奉天省人

君は又鎮湘と稱し奉天省瀋陽縣人にして千八百九十一年(光緒十七年)を以て生れ夙に北京法政大學を卒業す曾て奉海鐵路局長たりしが千九百二十八年黑龍江省財政廳長に任じ翌年同省政府委員たりしが千九百三十二年滿洲國成立後黑龍江省公署參議に任ぜられたり尙氏名と字の原音は Hsiao Hsiao-chin 及 Chai-hsiao-chin なり(哈爾濱市)

麗 鳳 書

薦任五等、熱河省公署理事官、總務廳人 奉天省人

君は奉天省遼陽縣人にして夙に日本に留學し早稲大學政治科を卒業し曾て横濱市の茂木商店天津支店に勤務したる事あり其後滿洲に歸り遼陽滿洲紡績會社に入り又は自治指導部員たりしが千九百三十二年滿洲國成立後熱河省公署理事官に任ぜられ現時同公署總務廳人 事科長として今日に至る(熱河省承德)

麗 陸 堂

大連西崗市商會長、 順義銀號及油坊經理、 關東州人

君は關東州大連管内南關嶺會泉水屯人にして千八百八十年六月二十一日(光緒六年)を以て生る千八百九十六年自

られ景雲章を賜はる尙氏名と字の原音は Pao Hsi 及 Tui-shan なり(新京市 六馬街參議府參議室內電四〇三三)

房 衡 國

綿絲布及内外雜貨商 同増利支配人 山東省人

君は山東省蕪縣人にして千八百八十年(光緒六年)を以て生る早くより商業に志し實務を習得し滿洲にて身を立て現時綿絲布及内外雜貨商同増利支配人として活躍す同店は劉煥文馬止亭の二人合資經營に係り賣上年額五十五萬元を算す販路は奉天市の外に四平街公主嶺開原新京法庫北鎮等あり仕入先は大坂上海營口方面なり(奉天城内鼓樓南 翰墨軒胡同同増利內電三三三八)

卜 和 克 什 克

薦任七等、興安西分省公署理事官、民政廳文教科長 內蒙古人

君は內蒙古昭烏達盟奈曼旗の出にして千九百二年(光緒二十八年)を以て生る千九百二十八年北京法政大學を卒業し教育界に入りて曾て北京蒙旗學校教員たりし事あり千九百三十一年滿洲事變後新國家成立するや大同二年興安西

分省事務官に任ぜられ民政廳文教科長となり後理事官に昇任して今日に至る(興安西分省公署民政廳內)

朴 永 泉

薦任八等、交通部事務官、總務司總務科 奉天省人

君は奉天省蓋平縣人にして千九百三年(光緒二十九年)を以て生る夙に奉天省立第三師範學校を卒業す官界に志し曾て海海鐵路公司秘書を経て同會計科長たりし事あり千九百三十二年滿洲國成立後大同二年交通部事務官に任ぜられ總務司總務科勤務たり(新京市馬場門外交通部總務司總務科內電四〇五四)

墨爾根巴圖魯

薦任六等、興安東分省公署理事官、民政廳文教科長 黑龍江省人

君は又英智勇と稱し黑龍江省齊齊哈爾人にして千九百六年(光緒三十二年)を以て生る千九百二十二年黑龍省立第一師範學校を卒業す曾て黑龍江省湯原縣教育司長を経て東北蒙旗師範學校訓育員たりし事あり千九百三十二年滿洲國成立するや興安東分省公署事務官に

宅私塾の勉學を修めるや實業界に志して翌年大連瀋陽順棧に入り商務に従事して經驗を積む千九百十九年獨立して福順義銀號を経営し信用厚く隆昌を致し千九百二十九年油坊をも自營して今日に至る千九百二十三年大連西崗市商會長に選任現時に及び千九百二十四年大連市會議員に選ばれし事ある外千九百三十年大連睦堂幼稚園を開設する等 同地の名望家たり(大連市西崗市街一九八)

寶 熙

勳二位、特任、參議府參議、憲法制度調查委員會委員 奉天省人

君は又瑞臣と稱し奉天省長白縣人にして正藍旗人の出千八百七十一年(清同治十年)を以て生れ前清進士學部左侍郎たり憲政編纂館提調修訂法律館大臣總理禁煙事務大臣太子少保實錄館總裁等に歴任し其後崇文門副監督大總統顧問約法會議員參政院參議等に任ぜられたる事あり千九百三十二年滿洲國成立するに及び代行府中令執政府內務長に特任せられしが後轉じて參議府參議となり憲法制度調查委員會委員に列す 德元年五月其功績により勳二位に叙せ

任ぜられ民政廳文教科長となり康德元年七月同署理事官に昇任して今日に至る(興安東分省公署民政廳內)

星 子 敏 雄

薦任六等、民政部事務官、總務司總務科 長、熊本縣在籍

君は熊本縣人にして昭和三年東京帝國大學法學部政治學科卒業し爾來關東廳警視廳同屬關東廳事務官等に歴任し其間關東廳警察官練習所勤務兼同警務局衛生課長心得同警務局保安課長等に歴補し大同元年滿洲國成立後其招聘に應じ民政部事務官に任じ總務司總務科長に補せらる(新京市錦町二ノ七電三六〇四)

星 野 直 樹

【從五位勳六等】簡任一等、財政部理事官、總務司長、國道會議議員、東京府在籍

父 光 多 萬延元、六生、現戶主
母 ミ ネ 明二、八生、長崎、池田卯三郎三女
妻 操 明三〇、二生、大阪 菅野道親長女、女子 英學塾出身

男正 一 大九、六生

君は東京府人星野光多の二男にして明治二十五年四月を以て生る大正六年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試験に合格同年大藏屬となり爾來副司稅官北稅務署長司稅官稅務監督局事務官熊本大阪各稅務監督局經理部長大阪東京各稅務監督局副部長等に歷任し同十五年大藏事務官に任ぜられ主稅局勤務たりしも後退官し大同元年滿洲國建設後同國政府の招聘に應じ現時前記の要職に就任す傍ら滿洲中央銀行繼承資產審定臨時訂立條約準備逆產處理積善治各委員會幹事國都建設計畫諮問鴉片專賣籌備各委員會委員國道會議々員等被仰付家族は尙二男良二(大一〇、一二生)長女慎子(同一二九生)弟茂樹(明二七、二生)同妻は女(同二九、一生、東京、鳥居榮一妹)妹花子(同三五、五生)弟芳樹(同四二、三生)あり(新京市崇智路四號地ノ四電三六五九)

堀越英二

薦任七等、文教科理事務官、庶務司庶務科長兼文書科長 東京府士族

君は東京府士族にして明治二十二年を以て生る夙に明治大學文學部に學び日本圖書館協會幹事東京帝國大學附屬圖書館員を経て大正十年六月東京帝國大學書記に任じ同學本部事務主任を命ぜらる其間文部省成人教育講座事務取扱内閣高等試験書記等を囑託せられ昭和七年九月東京帝國大學事務官に就任したるが大正元年十月滿洲國文教部事務官に就任し總務司文書科長を命ぜられ同二年四月庶務科長兼文書科長に轉じ次いで康徳元年七月文教部理事官に榮進す(新京市新發屯集合住宅一二號電四三八〇)

本庄 完

薦任七等、交通部事務官、郵務司庶務科長、大分縣在籍

君は大分縣人にして明治三十七年を以て生る昭和三年東京帝國大學法學部を卒業し帝國發明協會囑託大連滿洲報社々員奉天自治指導員等を経て大同元年滿洲國成立後其招聘に應じ交通部事務官に任じ郵務司庶務科長に補せられ今日に至る(新京市羽衣町三ノ四ノ二電三五七五)

本間 德雄

妻 三保子 明三三、一二生、兵庫、一瀬武内長女 男 春海 大八、五生

君は新潟縣人本間金雄の九男にして明治二十三年九月を以て生る第一高等學校を経て大正四年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し朝鮮總督府技師に任じ京城土木出張所長たりしが勲任技師を経て大同元年滿洲國建設後同國政府の招聘に應じ總督府を退官し現時前記の要職に就任す兼ねて國道會議幹事たり歐米へ出張せしことあり家族は尙二男尙雄(大一〇、二生)長女友子(同一一、三生)三男端雄(同一三、二生)四男元雄(昭二、二生)兄雄四郎(明四、一二生、現戸主)同妻とみ久(同一二、四生、埼玉、松崎銀平妹)兄雄五郎(同一五、八生)同妻サキ(同二五、一一生、新潟、和田久太郎長女)及其子女兒吉純(同一八、一二生)同妻キワ(同二九、八生、新潟、和田久助二女)及其一子あり(新京市羽衣町四丁目一〇電四五五八)

マ之部

眞坂嘉與

薦任五等、法制局事務官、東京府士族

君は東京府人にして明治十五年を以て生る同三十五年東京郵便電信學校行政科を卒業し逓信省官吏となり貯金局事務官に任じ爾來福岡貯金支局貯金課長小樽貯金支局長臺灣總督府交通局囑託等を経て大同元年滿洲國成立と共に國務院法制局囑託となり現時法制局事務官たり(新京市梅ヶ枝町新都ビル二二號電四一〇六)

馬込信一

薦任四等、國務院總務廳理事官、人事處人事科長 千葉縣士族

君は千葉縣士族にして昭和三年東京帝國大學經濟學部を卒業し南滿洲鐵道會社に入り大同元年滿洲國成立後其招聘に應じ國務院總務廳事務官に任じ人事處人事科長に補せられ次いで康徳元年七月同理事官に進む(新京市新發屯二

六官舎電三五四四)

前田正利

薦任八等、奉天省公務事務官、民政廳總務科文書股長 鹿兒島縣在籍

君は鹿兒島縣人にして明治二十五年を以て生る同四十三年私立鹿兒島中學を卒業し滿洲に渡り關東廳に奉職し大正十四年地方書記となり大連民政署に勤務し文書事務を執ること十年地方行政事務に携はる事十餘年にして大同元年四月滿洲國に招聘されて現職に就任す家族は妻キヨの外に三男一女あり(奉天市富士町四)

牧野一男

薦任七等、國務院總務廳事務官、主計處總務科長 岡山縣在籍

君は岡山縣人にして明治三十四年を以て生る夙に關西商業學校を卒業し南滿洲鐵道會社を経て大同元年滿洲國成立後國務院總務廳事務官に任じ主計處總務科長となり今日に至る(新京市東二條通三八電三五五五)

榎田猷太郎

薦任四等、法制局統計處理事官、資料科長、鳥取縣在籍

君は鳥取縣人榎田傳三郎の長男にして明治三十五年七月四日を以て生る大正十四年大阪外國語學校露語科を卒業後更に九州帝國大學に學び昭和三年同大學法文學部法律學科を卒へ南滿洲鐵道會社に入り總務部調査課勤務たりしが大同元年滿洲國成立後其招聘に應じ法制局統計處事務官に任じ資料科長に補せられ次いで康徳元年七月同理事官に榮進し今日に至る(新京市蓬萊町一ノ六電三五五二)

升巴倉吉

薦任一等、奉天省公務事務官、實業廳總務科長、大分縣在籍

君は大分縣人にして明治二十一年を以て生る夙に東亞同文書院を卒業し南滿洲鐵道會社に入社勤続鐵道部に十年推願榮耀に十年昭和四年參事に任じ滿洲事變勃發するや現職を抛ちて奉天に至り自治指導部諮議として建國工作に參畫し大同元年三月建國成るや奉天省公

署秘書となり五月實業廳總務科長に任じ今日に至る支那語に通曉し熱心なる指紋研究者にして滿洲國人の身分登記法に關して指紋應用の主張者として著聞す(奉天市淀町八電五一〇二)

松岡 信夫 薦任三等、興安南分省公署參事官、熊本縣在籍

君は熊本縣人にして明治二十二年を以て生る大正二年東京帝國大學農科大學獸醫學實科を卒業し熊本縣海外協會派遣生として東蒙古赤峰に三箇年間蒙古調査に従事し後大倉組經營蒙古華興公司農場總辦となり大同元年滿洲國建設後入りて興安總署參事官に任ぜられ次で同二年興安南分省公署參事官に轉じ今日に至る(新京市千鳥町二ノ一電四五五五)

松岡 三雄 薦任四等、交通部理事官、總務司總務科長、山口縣在籍

君は山口縣人にして明治三十六年を以て生る昭和三年京都帝國大學經濟學部經濟學科を卒業し南滿洲鐵道會社社員奉天自治指導部員を経て大同元年滿洲國成立後交通部事務官に聘せられ總務司

總務科長に補せらる康徳元年七月同理事官に進み以て今日に至る(新京市錦町三ノ一三電三五七九)

松木 俠 簡任二等、法制局參事官、第一部長兼第二部長、山形縣士族

君は山形縣士族松木員の弟にして大正十一年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し南滿洲鐵道會社社員となり後關東軍國際法顧問同統治部行政課長等を経て大同元年滿洲國成立後聘せられて同國法制局參事官に就任し歐米各國に出張を命ぜられ昭和九年歸國す現時法制局第一部長兼第二部長たり(新京市錦町四ノ二五「勤務先」同市六馬路法制局參事官室電四〇二四・四五五三)

松澤 國治 從五位勳六等、簡任三等、年滿濟南警察廳副廳長、長野縣在籍

君は長野縣人松澤甚三郎の四男にして明治二十三年十月を以て生れ大正十年分れて一家を創立す同六年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業す在學中中文官高等試験に合格し朝鮮總督府試補とな

り同七年朝鮮總督府道事務官に任じ全羅北道第一審査課長同第一審査課長兼審査課長督府營林廠事務官黃海道財務部長慶尙北道財務部長全羅北道警察部長平安北道内務部長忠清北道内務部長等に歴補し大同元年滿洲國の成立と共に其招聘に應じ現時哈爾濱警察廳副廳長に任じ今日に至る(哈爾濱市南崗建築街八號)

松澤 光茂 薦任二等、國務院總務廳理事官、情報處總務科長、山形縣士族

君は山形縣士族松澤光憲の長男にして明治十四年二月廿二日を以て生れ大正二年家督を相続す明治三十七年六月早稲田大學を中途退學して米國に航し加州スタンフォード大學に入り後ケンタツキー州立大學大學院コロンバス、カレッジに轉じ同四十一年卒業す歸朝後東京商工會議所外事課長に就任せし同四十二年之を辭し同四十四年布哇に招聘せられ布哇國際基督教青年會創立及其完成の爲力を盡す事十五箇年に及

(新京市北安路八一二電三六八二) 参照 橋本左五郎、松島鑑の項

松田 芳輔 薦任二等、北滿特別區公署警務處長、山形縣在籍

君は山形縣人にして明治二十三年を以て生る同四十五年盛岡高等農林學校を卒業し京都府技手に任じ文官高等試験行政科に合格す爾來警視廳警部同官房文書課長同警視廳東廳事務官高等警察課長等に任補し大同元年滿洲國成立と共に其招聘に應じ北滿特別區公署理事官に任す康徳元年七月同公署警察處長に轉じ現在に至る(哈爾濱市北滿特別區公署警察務處内)

松田 令輔 正六位、簡任二等、國務院總務廳主計處長、國道會議議員、山口縣在籍

君は山口縣人松田喜一の七男にして明

治三十三年四月二十二日を以て生る大正十二年東京帝國大學法學部英法科を卒業し爾後大藏屬に任じ廣島橫濱京橋各稅務署長を経て昭和七年三月釀造試驗所事務官兼大藏事務官に轉じ滿洲國建國後其招聘に應じ同年七月退官す現時國務院總務廳主計處長にして逆産處理積善後滿洲中央銀行繼承資産審定各委員會幹事國道會議々員等被仰付家族は尙長女禮子(昭三、九生)二女邦子(同八、一一生)兄治兵衛(明一四、一〇生、現戸主)同妻ミツ(同一九、五生、山口、山本市之助二女)及其一男三女あり姉ツネ(同三〇、九生)は山口縣人東隆治に嫁せり(新京市新發屯集合住宅電三六〇二)

松原 梅太郎 簡任二等、營口稅關長、石川縣在籍

君は石川縣人にして明治十七年を以て生る同四十四年東京帝國大學法科大學英法學科を卒業し海軍中主計に任す後豫備役に編入と共に支那海關に轉じ天津海關員となる爾來瀋陽大連上海青島各海關に勤務し大同元年滿洲國建設と共に聘せられて營口稅關長に任じ今日に至れり(營口稅關内)

ぶ昭和元年日本基督教青年會同盟總務部長に轉じて歸朝専ら對外報情及國際協和事業に貢献す大同元年滿洲國建設後其招聘に應じ國務院總務廳事務官にして情報處總務科長たりしが康徳元年七月同理事官に榮進し今日に至る家族は尙長女朝子(大一、四生)あり(新京市六馬路國務院總務廳情報處内電四五〇九)

松島 鑑 簡任二等、實業部理事官、農務司長、國道會議議員、長野縣在籍

君は長野縣人松島庄太郎の四男同輩の弟にして明治十九年七月を以て生る夙に東北帝國大學農科大學卒業滿鐵農務課長關東軍特務部囑託を経て滿洲國成立後其招聘に應じ實業部理事官に任じ農務司長兼林務司長に補せらる康徳元年五月兼職を免ぜられ現に前記の官職に在り逆産處理委員會幹事國道會議々員官術建築計畫委員會委員被仰付家族は尙二女巴満子(大一五、一生)あり

父 庄太郎 主 嘉永六、一生、現戸

妻 スミエ 明二七、三生、北海道、橋本左五郎二女

丸 才 司 簡任二等、北滿特別區高等檢察廳檢察官
千葉縣在籍

君は千葉縣人にして明治二十九年を以て生る大正十年東京帝國大學法學部を卒業し檢事に任じ東京區東京地方各裁判所檢事に補せらる大同三年滿洲國司法部の招聘に依り渡滿現職に就任今日に至れり（哈爾濱市北滿特別區高等檢察廳内）

丸 山 久 軍政部囑託
山梨縣在籍

君は山梨縣人にして明治二十一年を以て生る夙に海軍機關學校を卒業し機關少尉に任じ同中佐に陞る滿洲國成立後其招聘に依り軍政部囑託となり今日に至れり（新京市新發屯）

萬 咸 章 元洮昂鐵路管理局長
湖北省人

君は又文川と稱し湖北省黃岡縣人にして千八百九十五年（光緒二十一年）を以て生れ夙に保定陸軍軍官學校及北京航空學校を卒業す北京航空學校教官を経て東三省航空處飛虎隊上校隊長に任じ其後東北航空學校教育長兼教官東北

航空處總辦代理東三省保定總司令部航空處長等に歴任し轉じて洮昂鐵路工程局副局長に任ぜられ千九百三十二年滿洲國成立するや洮昂鐵路管理局長に任じ洮索鐵路齊克鐵路各局長を兼任したる事あり尙氏名と字の原音は *Wan Hsien-chang* 及 *Wen-chuan* なり

萬 文 滙 簡任四等、吉林省公署事務官、警務廳外事科長、奉天省人

君は又宗海と稱し奉天省興京縣人にして千九百三年（光緒二十九年）を以て生る夙に日本に留學し千九百二十九年東京工業大學を卒業す歸國後天津河北省立工業大學教授たりしが後轉じて奉天紡紗廠技師營口紡紗廠工廠長等を経て哈爾濱電業局電鐵科長たりしが千九百三十二年滿洲國成立後吉林省公署事務官に任じ同署警務廳外事科長として現在に至る（吉林市）

萬 澤 正 敏 簡任四等、交通部理事官、路政司庶務科長、滋賀縣在籍

君は滋賀縣人にして明治三十四年を以て生る大正十四年上海同文書院を卒業

ミ之部

三 浦 四 郎 助 薦任六等、興安總署技正、勸業處勤務
青森縣在籍

君は青森縣人にして明治二十六年を以て生る同四十五年青森縣立畜産學校を卒業し南滿洲鐵道農事試驗場に入る大同二年滿洲國政府の招聘に應じ興安總署勸業處技正に就任し今日に至れり（公主嶺菊地町）

三 浦 靖 從七位、龍江稅務監督署副署長、宮城縣在籍

君は宮城縣人にして明治二十八年を以て生る大正七年小樽高等商業學校を卒業し直に三井物産會社に入り室蘭製鋼所勤務となる後同社を辭し官途に奉じ大正十一年關東廳屬に任じ累進して昭和五年關東廳理事官大連民政署財務課長たり昭和七年依願免本官となり同時に滿洲國に聘せられ奉天稅務監督署副署長に擧げられ更に龍江稅務監督署副

署長に轉じ今日に至る（龍江稅務監督署内）

三 浦 碌 郎 從四位勳三等、簡任一等、吉林省公署理事官、總務廳長
東京府士族

母 ことや 元治元、八生、野尻
妻 美好 正彦三女、明二五、二生、千葉野尻文夫姉

君は京都府士族三浦覺の長男にして明治十五年九月二十三日を以て生れ大正十年家督を相続す先是明治四十一年東京帝國大學法科大學法律科を卒業し文官高等試驗に合格す爾來東京永代橋深川扇橋四谷警署署長を経て大正六年熊本縣宇土郡長に任ず同八年臺灣總督府警視同十三年高雄州知事同十五年臺中州知事昭和二年臺北州知事に任じ同五年關東廳内務局長に轉じ南滿洲鐵道會社監理官普通試驗委員長官有財産調査委員租稅制度調査委員等を命ぜらる昭和七年退官し大同元年八月滿洲國政府の招聘に應じ吉林省公署理事官に任じ總務廳長の要職に補せらる尙逆産處理委員會幹事被仰付（吉林省城新聞門裡紙房胡同第四號）

三 城 晁 雄 薦任三等、稅關理事官、關稅科長、熊本縣在籍

君は熊本縣人にして明治三十五年を以て生る大正十四年東京帝國大學法學部政治學科を卒業し支那海關に入る大同元年滿洲國成立するや聘せられて稅關事務官に任じ關稅稅務科長兼總務科長に補せられ康徳元年七月稅關理事官に昇任す（關門環春稅關官舎内）

三 谷 清 從五位勳四等、憲兵中佐、簡任二等、奉天省公署理事官、警務廳長、東京府在籍

父 仲之助 安政三、一二生、現戶主
母 富士子 明元、一生
妻 靜子 明二八、三生、杉坂出
男 勝正 大二、一生、滿洲國陸軍歩兵少尉

君は東京府人三谷仲之助の長男にして明治二十年十月二十九日を以て生る同四十二年陸軍士官學校を卒業し歩兵少尉に任じ昭和七年憲兵中佐に累進す其間高崎歩兵第十五聯隊附陸軍戸山學校

體操劍術學生福知山步兵第二十聯隊附を経て大正九年憲兵傳習所を卒業し歩兵大尉より憲兵大尉に任ぜらる爾來姫路東京赤坂横濱名古屋各憲兵分隊長に歴補昭和二年奉天憲兵分隊長に轉じ同六年より現地に於て戰時に勤務し奉天省政府顧問を兼ね同七年四月依願豫備役仰付けられ同月滿洲國の招聘に應じ前記の官職に任じ現在に至る家族は尙二男矩正(大四、五年、東京、玉川中學在學)四男國治(同一〇、九生、奉天中學在學)五男忠雄(昭三、九生)あり(奉天市商埠地九徑路十六號電四八九〇「留守宅」東京市澁谷區原宿二ノ一七〇)

三宅 福馬

【正五位勳四等】前滿洲國法制局長(簡任一等)高知縣在籍

妻

壽

明二二、八生、高知宮地茂平二女、東京府立第三高女出身

男 精造 大三、一一生

君は高知縣人三宅佐太郎の三男にして明治十六年六月を以て生れ同四十二年家督を相続す同三十五年東京郵便電信學校を卒業し通信事務官補選信管理局事務官電氣局監理課長及業務課長通信

局電信課長選信官吏練習所教官臨時電信電話建設局書記官兼選信書記官等に歴任し昭和四年臺灣總督府交通局長に轉じ次いで同局理事交通局長兼選信部長兼監理課長事務取扱たりしも後退官し大同元年滿洲國建設後同國政府の招聘に應じ法制局長の要職に擧げられ積缺善後委員會鴉片專賣籌備委員會選産處理委員會各委員臨時訂立條約準備委員會幹事たりしが康徳元年退職す曩に朝鮮臺灣及支那に出張並に電氣事業研究のため瑞西米國に留學す著書に「電氣事業經濟論」「電氣事業の經濟」「事務管理論」等あり家族は尙弟清水(明三〇、一生、農學士)同妻フサ(同四〇、一〇生、吉留正之助長女)あり長女富美子(同四三、四生)は醫師山田博之に嫁し二男精二(同四〇、一生)は大倉家に養子となれり(日本東京市蒲田區女塚町一三八)

水原 義雄

薦任七等、哈爾濱航政局事務官、香川縣在籍

君は香川縣人にして明治三十七年を以て生る昭和二年早稻田大學商學部を卒業後滿洲國鐵道會社に奉職し奉天驛助役たりしが大同元年滿洲國成立後其招聘に應じ監察院監察官に任じ次いで航政局事務官となり哈爾濱航政局勤務を命ぜられ今日に至る(哈爾濱航政局内)

皆川 豐治

簡任二等、國務院總務廳理事官、人事處長、山形縣在籍

妻 みさを 明二九、八生、福井高松龍吉妹
男 廣居 大一五、九生

君は山形縣人皆川茂右衛門の四男にして明治二十八年四月二十五日を以て生

美濃部 洋次

薦任三等、實業部理事官兼商標局事務官、兵庫縣在籍

君は兵庫縣人にして明治三十三年を以て生る大正十五年東京帝國大學法學部英法科を卒業し特許局屬官同事務官商

宮村 榮仁郎

簡任二等、關門稅關長、石川縣在籍

君は石川縣人にして明治十四年を以て生る同三十八年上海東亞同文書院を卒業し營口鈔關員大連上海汕頭青島天津各海關員を経て大同元年滿洲國建設と共に聘せられて關門稅關長に就任し今日に至る(關門稅關官舎)

る大正九年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同年滿洲鐵道會社に入社し東亞經濟調查局に勤務す同十年退社翌年司法官候補となり同十二年檢事に任ず爾後東京仙臺若松盛岡秋田仙臺各地方裁判所勤務を命ぜられ昭和三年以降特に思想檢察に力を盡せり大同元年五月滿洲國建設に當り其招聘に應じ退官滿洲國最高檢察廳檢察官となり後國務院總務廳理事官に任じ當初秘書處長を勤め次で人事處長に轉じ康徳元年三月恩賞處新設に當り同處長を兼ね又官衙建築計畫委員會臨時訂立條約準備各幹事被仰付家族は尙長女千里(大一二九生)二女智子(昭四、三生)二男莞爾(同六、一一生)兄建藏(明二五、七生、現戶主)同妻みつ(同二七、一〇生、山形、勝木堅定二女)及其子女養兄忠藏(同一七、一〇生、山形、齋藤彦右衛門三男)同妻しえの(同二六、一一生、山形、渡部彌助妹)及其一子弟富之丞(同三五、九生)同妻とし(同四五、一生、兵庫、足立武樹長女)あり姪公(大四、六生、兄建藏長女)は山形縣人水口九郎右衛門に嫁せり(新京市羽衣町四ノ二ノ二電三五五五)

△之部

向井俊郎 薦任二等、法制局理事官、統計處長兼總務科長 福岡縣士族

君は福岡縣士族向井哲吉の長男にして大正十一年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し日本勸業銀行員東亞經濟調查局員を経て南滿洲鐵道會社に入り調査課勤務たりしが大同元年滿洲國成立後同國の招聘に應じ法制局統計處事務官に任じ統計處長兼總務科長に補せられ尋で康徳元年七月同理事官に進む現時前記の職に在り(新京市崇智路三〇二電三五九七)

村上米太郎 勳五位、吉林省公署總務廳勤務 愛媛縣在籍

妻 靜代 愛媛、木村義仁五女 君は愛媛縣越智郡湯浦村の出身にして明治二十年十二月三日を以て生る同四十年十一月歩兵第二十二聯隊へ入營し大正元年滿洲に派遣され同七年露領派遣軍

に従ふ同九年戰功により勳七等旭日章を受け翌年歩兵特務曹長に進み同十四年豫備役に編入さる昭和二年九月關東廳に奉職内務局地方課に勤務し同七年屬官となりしが大同元年十月吉林省公署屬官總務廳勤務に轉じて職を滿洲國に奉ず同二年四月吉林省公署民政部哈爾濱駐在員となり縣參事官代理を務めつゝありしが康徳元年八月三十一日午前一時北鐵南部線五家子双城堡兩驛間に於て日本人七名外國人二名の乗客と列車襲撃の匪賊に人質として拉致されたり同九月二日松花江上三隻の戎克に監禁中日滿兩國の救援隊に遭遇してその「日本人が居らぬか」の呼聲に對し銃殺の運命を顧みず所在を絶叫して一行を救ひ自ら兇弾に貫かれて重傷を負ふその犠牲的精神英雄的行為は誠に一世の模範にして各方面の表彰其數を知らざる状態なり滿洲國政府は勳五位景雲章を賜ひ之を發揚するところあり外國人にて同國勳位を授與せられし最初なり家族は尙一男二女あり(哈爾濱市)

村角克衛 薦任一等、民政部土地局總務處長 柘木縣在籍

君は柘木縣人にして明治二十七年を以

て生る夙に東京帝國大學法學部政治學科を卒業し南滿洲鐵道會社に入り經理部に勤務す次で關東軍統治部囑託となり大同元年滿洲國の招聘に應じ國務院總務廳主計處事務官に任じ康徳元年七月民政部土地局總務處長に轉ず(新京市浪速町二ノ二電三五七〇)

メ之部

明 善 薦任七等、興安警察局長、札資諾爾警察署長 興安北分省人

君は興安北分省陳巴爾虎旗人にして千八百九十三年(光緒十九年)を以て生る千九百十一年呼倫貝爾蒙旗學校を卒業す夙に官界に志すところあり千九百三十二年滿洲國成立するや興安北分省總務廳會計科需用股長となり大同二年轉じて滿洲里警察署長に任ぜられしが次で興安警察局長に任じ興安北分省札資諾爾警察署長となり以て今日に至る(興安北分省札資諾爾)

米良重穂 薦任八等、大連稅關鑑査官 熊本縣在籍

君は熊本縣人にして明治十九年を以て生れ明治四十年早稻田大學を中途に退學して支那に渡り稅關事務に従ふ會て青島海關員を経て上海廣東大連各海關に勤務したり大同元年大連稅關鑑査官

に榮進し以て今日に至る(大連市大連稅關電話二二五〇六)

毛之部

母 賽 堯 時計理製具醫藥器商
中洋行支配人
河北省人

君は河北省寧縣人にして千九百一十一年(光緒三十七年)を以て生る。夙に實業界に入りて商務に従事す。千九百二十七年開設にして瀋陽を以て本拠とし、出資者とする時計理製具醫藥器具販賣中洋行支配人たり。小社活動家にして、資本年額約十萬元に及び、大坂東京方面より仕入の事も亦大に地味取費とす。(奉天府中興街生業製具中洋行内)

毛 邁 風 萬任一等、國立賽馬
場長、奉天省人

君は又瑞臨と稱し奉天省遼寧縣人にして千八百八十五年(光緒十一年)を以て生る。夙に日本に留學して陸軍士官學校を卒業す。早くより軍警界に入り、千九百十八年曹錕軍第一師參謀長に昇進し、千九百二十四年吉林軍城廣安に任じ、第一軍直轄會時鎮守使第四軍參謀長たり。

りしが千九百三十二年滿洲國成立後吉林省警備副司令となり、同省公署參議を兼ねしが、其後國立賽馬場長に任じて、以て今日に至る。尚氏名と字の原音は Mo Yu-fong 及 Jul-ahch なり。(吉林市)

毛 五 雲 工業藥品雜貨類雜貨
商、久康貿易公司出
資者兼支配人
江蘇省人

君は江蘇省上海人にして千八百九十年(光緒十六年)を以て生る。夙に實業界に志して貿易業に従事し、滿洲に於て身を立て、小社よく純化學科工業藥品雜貨類五種雜貨輸入商久康貿易公司の出資者兼支配人として活躍す。千九百二十年開設にして、奉天地味取費をなし、資本年額約十八萬元を算すと云ふ。(奉天市南市場久康貿易公司内電話三七八六)

毛 星 美 於 菟 從二位、萬任二等、
國務院特任會計科長
主計廳特任會計科長
兼總務廳特任會計科長
福岡縣在籍

父 保太郎 元治元、二生、現戶主
母 ミヅキ 明二、三生、山口、
士、三吉周亮長女

妻 喜美子 明四〇、三生、東京
大豐邦治長女

君は福岡縣人毛星保太郎の二男にして、明治三十五年二月十六日を以て生る。大正十四年東京帝國大學法學部政治學科を卒業し、同年高等試験行政科に合格す。同十五年專賣局書記兼大藏省となり、昭和二年司稅官に任じ、大牟田稅務署長同四年熊本稅務署長同七年下京稅務署長等に歷補す。昭和八年退官し、滿洲國政府に聘せられ、國務院總務廳事務官に任じ、主計廳特別會計科長兼秘書處經理課長に補せられ、尋で康徳元年七月同理事官に進む。現時前記の要職に在り。家族は尙長女玲子(昭三、七生)二女岳子(同五、九生)二男魂(同八、一生)及兄凱兒(明二八、五生)同妻直子(同三七、七生)東京、長谷川喬二女(其二男一女あり、姉アヤコ(同三二、一生)は東京府人堀尾豐隆の叔母モヨ(同二、四生)は福岡縣人加來妻貞長男女二に嫁し、大叔父格藏(天保一三、一生)は分家せり。(新京市國務院總務廳主計廳内電話四五三一)

孟 昭 田 元熱河騎兵團總監
山東省人

君は又蔭青と稱し山東省汶上縣人にして千八百八十年(光緒六年)を以て生る。夙に奉天講武學堂を卒業す。早くより奉天軍に入り、累進して千九百二十五年第一師第三十八旅長となり、千九百二十七年熱河騎兵第一師長に任じ、後東北陸軍熱河駐軍訓練總監部副監を経て、熱河騎兵訓練監に昇任したる事あり。尙氏名と字の原音は Meng Chao-tien 及 Yin-ching なり

望 月 秀 二 薦任四等、實業部技
佐、農務司漁牧科勤
務、滋賀縣在籍

君は滋賀縣人にして明治二十二年を以て生る。同四十四年東北帝國大學農科大學水産學科を卒業し、北海道方面並に支那沿岸各地水産研究及實地漁業に従事す。大同元年滿洲國成立後實業部に聘せられ、技正に任じ、農務司漁牧科勤務を命ぜられ、次で康徳元年七月實業部技佐に轉じ、以て今日に至る。(新京市新發屯)

森 豐 薦任三等、交通部理
事官、路政司第二科
長、香川縣在籍

君は香川縣人にして明治三十一年を以て生る。夙に日露協會學校を卒業し、南滿

洲鐵道會社に入り、四平街驛助役を経て鐵道部貨物課勤務たりしが、大同元年滿洲國成立後其招聘に應じ、交通部事務官に任じ、路政司第二科長に補せられ、康徳元年七月同理事官に榮進し、今日に至る。(新京市錦町三ノ三電三六二九)

森 田 鋼 治 薦任六等、監察院審
計官、香川縣在籍

君は香川縣人にして明治三十四年を以て生る。大正十四年日本大學法文學部法律學科を卒業し、官途に就き、會計檢査院に奉職し、副檢査官たりしが、大同元年滿洲國成立するに及び、招聘に應じ、監察院審計官に任ぜられ、現在に至る。(新京市監察院審計部内電話四二五九)

山本 茂

薦任三等、權度局理事官、總務科長
岐阜縣在籍

君は岐阜縣人にして明治三十三年を以て生る大正十四年東京帝國大學法學部獨法科を卒業し高等試驗行政科に合格す爾來商工省屬特許局事務官商工省事務官等に歴任し大同二年滿洲國政府の招聘に依り實業部に入り權度局事務官總務科長に就任し尋いで康徳元年七月權度局理事官に轉じ今日に至る(新京市馬場門外實業部權度局内電四五七三)

山本 力

薦任六等、文教部事務官、學務司總務科長、鹿兒島縣在籍

君は鹿兒島縣人にして明治二十九年を以て生る大正十三年廣島高等師範學校文科三部を卒業し昭和六年關東廳視學に任ぜられ地方課學務系主任に補せらる大同元年滿洲國建設と共に招かれて文教部事務官學務司總務科長に就任今日に至る(新京市大經路市營住宅三號電四三七八)

大和新一郎

薦任七等、交通部事務官、郵務司貯金科長、東京府在籍

君は東京府人にして明治二十四年を以て生る夙に中央大學專門部に學び通信省に入り小樽貯金支局勤務を経て大阪貯金局庶務課長に昇進し大同元年滿洲國成立するに及び其招聘に應じ交通部事務官に任じ現に郵務司貯金科長たり(交通部郵務司貯金科内電四二五二)

ユ之部

由 獻 廷

協茂盛經營、山東省人

君は山東省福山縣人にして千八百七十七年八月二十日(光緒三年)を以て生る八歳にして本村小學校に修學し實業界に志して千八百九十二年芝罘に出で同地の協茂棧に入店し商務に従事するところあり千九百四年大連に到り支店協茂盛を設立し經營その任に當り業績を揚げ信用厚く以て今日に至る(大連市浪速町五〇協茂盛電四六三二)

俞 紹 武

哈爾濱稅關長、河北省人

君は河北省大興縣人にして千八百八十八年(光緒十四年)を以て生る千九百九年東省鐵路俄文學堂を卒業す夙に哈爾濱海關に入り滿洲里分關主任を経て綏芬河分關主任となり更に濱江海關在勤たりし事あり大同元年哈爾濱稅關長に轉す尙氏名の原音は YU SHIH-ORSHI WANGなり(哈爾濱市南崗街)

尤 文 藻

商埠局財務科長、浙江省人

君は又潔丞と稱し浙江省吳興縣人にして千八百八十六年(光緒十二年)を以て生る千九百八年上海紡輪大學を卒業す早くより外交官を志し外交委員審査合格外交官となり法學碩士たり會て北京外交部科員直魯巡閱使司令部顧問となるワシントン會議に當りては中華民國代表に參加し後スペイン代理公使を勤務したる事あり千九百三十二年滿洲國成立後奉天市政公署秘書處に勤務し後商埠局財務科長に任じ今日に至る(奉天市商埠南市場耕研里)

熊 希 堯

薦任五等、吉林省公署理事官、民政廳總務科長、吉林省人

君は吉林省永吉縣人にして千八百八十三年(光緒九年)を以て生る千九百九年湖南中路師範優級選科を卒業す官界に志して千九百十三年湖南省行政公署教育司科長を経て千九百十七年吉林省教育廳視學に轉じ次で同省政務處第一科長より千九百三十一年吉林省和龍縣長に進みたる事あり千九百三十二年滿洲國成立するや吉林省公署事務官に任

熊 璋

薦任七等、國務院總務司事務官、需用處用度科勤務、杭州駐防滿洲旗人

君は又爾佳と稱し杭州駐防滿洲旗人にして千八百八十六年(光緒十二年)を以て生る千九百十年浙江高等學校を卒業す滿洲に到り會て黑龍江愛琿稅捐分局長に進み次で遼源商埠局技士濟陽縣公署第二科長等に歴任し千九百三十一年江蘇江儀煙酒公賣費稽征分局長に轉任す千九百三十二年滿洲國成立するや再び滿洲に來りて國務院總務司事務官に任ぜられ需用處用度科勤務となり以て今日に至る(新京市日出町)

楊守奎 錢舖會元公配人 河北省人

君は河北省臨榆縣人にして千八百九十七年(光緒二十三年)を以て生る實業界に志して金融業に従事し小壯を以てよく錢舖會元公の支配人となり貸出年額八十五萬元を算す出資者は孫會元堂にて千九百二十二年開設の新舖なるが新京市及哈爾濱市に支店を設置し客筋は市内糧棧油坊燒鍋及軍政界諸官衙方面なり(奉天市小西門裡大御路北會元公内)

楊守亭 熱河省陵源縣長 熱河省人

君は又仲達と稱し熱河省陵源縣人にして千八百九十年(光緒十六年)を以て生る夙に高級中學を卒業す曾て陵源保甲所長を経て陵源縣長代理となり次で建設局長教育局長維持會長等に歴任したる事あり大同二年熱河省陵源縣長に任ぜらる(熱河省陵源縣)

楊晉源 奉天省營口縣長 奉天省人

君は又君青と稱し奉天省瀋陽縣人にして千八百八十七年(光緒十三年)を以て

て生る千九百十六年北京大學文科を卒業す官界に入り曾て奉天省公署秘書たりし事あり千九百三十二年滿洲國成立後擧げられて奉天省營口縣長に任ぜらる(奉天省營口縣)

楊乃時 齊々哈爾市長 奉天省人

君は奉天省遼中縣人にして千八百九十年(光緒十六年)を以て生る千九百十六年奉天法政專門學校を卒業す曾て奉天高等審判廳主任同書記官を経て鶴岡煤礦公司公務課長となり次で呼海鐵路總務科長黑龍江省財政廳科長龍江稅務監督署科長等に歴任したる事あり千九百三十二年滿洲國成立後黑龍江省龍江縣長に任ぜられ後齊々哈爾市長となり大同二年渡日して六大都市を歴訪したる事あり(齊々哈爾市)

楊培 薦任六等、財政部理 事官、稅務司經理科 長、奉天省人

君は又植六と稱し奉天省海城縣人にして千八百九十八年(光緒二十三年)を以て生る千九百二十年國立瀋陽高等師範學校を卒業す曾て吉林省財政廳徵稅科員を経て財政廳第二科稅捐股長より

吉林財政廳第二科長たりし事あり千九百三十二年滿洲國成立後財政部事務官に任じ同部稅務司經理科長となり康徳元年七月同部理事官に昇任して今日に至る(新京市西四道街三二電四二〇)

楊鳳翔 雜貨商益順合出資者 兼支配人、河北省人

君は河北省樂亭縣人にして夙に實業界に志して商業に身を立て現時綏中縣に雜貨商益順合を経営す千九百二十九年開設の新舖なれ共大連安東營口奉天等専ら滿洲國內に仕入先を有し販路は大熱境に至り興城關城に亘る廣範圍にして賣上年額約十萬元同地方の著名なる店舖となりつゝあり(綏中縣東大街益順合内)

翟潤田 奉天省長白縣長 奉天省人

君は又雲奇と稱し奉天省梨樹縣人にして千八百九十七年(光緒二十三年)を以て生る夙に日本に留學し千九百二十二年北海道帝國大學を卒業す歸國後官界に入り千九百三十二年滿洲國成立後長白縣長に任じ以て今日に至る(奉天省長白縣)

横瀬花兄七 薦任一等、實業部技 正、農務司勤務 茨城縣在籍

君は茨城縣人にして明治二十五年を以て生る夙に北海道帝國大學農科大學を卒業し北海道廳技手に任じ後滿洲鐵道會社に入社農政課勤務たりしが大同元年滿洲國に聘せられ實業部事務官に任じ農務司農務科長を命ぜられ次で康徳元年七月實業部技正に轉じ農務司勤務となり以て今日に至る(新京市蓬萊町)

吉田正武 薦任七等、實業部事 務官、總務司庶務科 長、長崎縣在籍

君は長崎縣人にして夙に明治大學商學部を卒業し直に渡滿して大連機械製作所に就職し後轉じて大連福昌華工會社に勤務したりしが大同元年滿洲國成立するや其招聘に應じ現職に任ぜらる(新京市羽衣町電三五二八)

吉野淑計 簡任二等、吉林高等 法院推事、京都府在籍

妻 みつ 明二九年生、京都府 立第二高女出身

吉村秀藏 薦任四等、吉林省公 署駐延吉辦事處事務 官、岡山縣在籍

君は岡山縣人にして明治二十五年五月二十三日を以て生る同四十四年兵庫縣巡查を拜命し大正四年警部補に同六年警部に昇進す同十年臺灣總督府屬に轉じ警保局勤務となり同十二年朝鮮總督府道警部に翌年警視に任じたりしが大同元年滿洲國建設後其招聘に應じ同二年四月吉林省公署駐延吉辦事處事務官に任じ現在に至る(吉林省公署駐延吉辦事處内)

ラ之部

羅 惠 薦任三等、國立種馬場長、奉天省人

君は又秀川と稱し奉天省瀋陽縣人にして千八百九十四年(光緒二十年)を以て生れ夙に奉天法政專門學校政治經濟科を卒業す千九百二十七年河南省蘭封縣知事に任じ其後黑龍江省保安司令部中校副官同省警察廳第一署長等を經て拜泉縣公安局長兼清鄉副局長に任じたりしが大同元年一時辭官せり大同二年六月軍政部馬政局成るに及び軍政部事務官より理事官に任じ馬政局勤務となる康徳元年七月國立種馬場長に轉じ洮南種馬場長に補す(奉天省洮南縣洮南種馬場内)

羅 孝 然 薦任八等、哈爾濱市政公署技正、工務處勤務、奉天省人

君は奉天省瀋陽縣人にして千九百年(光緒二十六年)を以て生る千九百二十四年唐山交通大學土木科を卒業す會

て技術界に入り東海鐵路公司第四區主任を経て千九百三十一年濱江市政籌備處第二科長たりし事あり新國家成立後大同二年哈爾濱市政公署技正に任じ現時工務處勤務たり(哈爾濱市政公署工務處内)

羅 振 玉 勳一位、特任、監察院長、浙江省人

君は又叔言と稱し浙江省上虞縣人にして千八百六十五年(清同治四年)を以て生れ清朝の遺臣として亦金石學の大家として知られ其蒐集に係る秘藏品誠に得難きもの多しと傳へらる會て江楚編譯局主任を経て學部參事官京師大學堂農科監督南書房行走等に歷任したる事あり天津にありて宣統帝溥儀に使へ傍ら金石古文書の研究に従事すること多年千九百三十一年滿洲事變前既に滿洲に至り新國家建設の大業に盡力す滿洲國成立するに及び參議府參議臨時賑務處督辦に任ぜられしが大同二年故干沖漢の後を繼ぎ監察院長の顯職に轉じ今日に至る康徳元年五月功績により勳一位に叙せられ景雲章を賜はる尙氏名と字の原音は Lo Chen-yu 及 Chin-pai たり(新京市大經路市營住宅五〇號電

四五五六

羅 振 邦 薦任三等、吉林省公署理事官、總務廳秘書處長、奉天省人

君は又靖宣と稱し奉天省海龍縣人にして千八百九十五年(光緒二十一年)を以て生れ夙に日本に留學して千九百二十三年東京高等師範學校文科を卒業す歸國後奉天省教育廳省視學を経て奉天市政公署教育課長奉天省教育諮議奉天市政公署衛生課長に歷任す後熱河都統署秘書熱河教育廳長代理等となり千九百二十六年奉天交涉諮議政務處長に任じ千九百二十八年奉海鐵路公司總務處長より東三省交涉總署政務處長を経て千九百三十年吉長鐵路管理局秘書兼稽核課長に任じ此の間五等嘉禾章を受給鐵路維持委員會總務處長として時局に當り新國家成立後吉林省公署秘書官に任じ後理事官に昇任して現に總務廳秘書處長たり尙氏名の原音は Lo Chen-pai たり(吉林市)

羅 清 齋 綿絲布商同順和出資者兼支配人

君は幼少より實業界に入りて商業に従事し特に綿絲布取引に精通するところ

あり同地方に於て斯業三十餘年の經驗を有し現に綿絲布商同順和の出資者兼支配人たり同店は他に福順興祥雲堂周介臣等合資經營に係り開設後七十年に達せんとし實上年額五十三萬元を算す大阪上海方面に仕入先を有し販路は遠く四洮北滿兩路沿線各地に及ぶ取引銀行に中央銀行分行朝鮮銀行等あり(奉天城裡鼓樓南翰墨軒胡同路南同順祥内)

羅 潛 薦任六等、國務院總務廳秘書官、秘書處勤務、廣東省人

君は廣東省南海縣人にして千八百九十七年(光緒二十三年)を以て生る千九百十五年上海南洋大學を卒業す千九百二十年廣西陸軍第一師司令部軍法官を経て後千九百二十九年上海啓新洋灰公司海外推銷部主任たりし事あり千九百三十二年滿洲國成立するや國務院總務廳秘書官に任ぜられ秘書處勤務となり以て今日に至る(新京市西三道街)

羅 福 葆 簡任、尙書府秘書官兼禮官、浙江省人

君は又君羽と稱し浙江省上虞人にして千八百九十七年(光緒二十三年)を以て

て生る早くより官界に入り各地に任官したりしが千九百三十二年滿洲國成立後執政府秘書官に任じられたり後改稱により宮内府秘書官に轉じ總務科長を経て現に尙書府秘書官兼禮官たり尙氏名の原音は Lo Fu-pao たり(新京市)

駱 家 驥 薦任六等、吉林省公署事務官、民政廳土地科長、湖南省人

君は又仲驥と稱し湖南省江華縣人にして千八百八十一年(光緒七年)を以て生る千九百十七年湖北普通學堂を卒業す翌年官立第十兩等小學堂長となりしが千九百十七年吉林教育廳第二科員に轉じ千九百二十年官公署政務廳課長に進み千九百二十九年吉林省政府秘書たりし事あり千九百三十二年滿洲國成立後吉林省公署事務官に任ぜられ民政廳土地科長として今日に至る(吉林省公署民政廳内)

リ之部

李 維 周 黑龍江省公署參議 關東州人

君は又隆業と稱し關東州金州人にして千八百七十八年(光緒四年)を以て生れ會て呼倫教育會長呼蘭勸學所總董を経て衆議院議員に選ばれし事あり其後黑龍江省督軍公署諮議同省議會議長呼海鐵路董事禁煙總局總辦等に歴任して千九百二十八年黑龍江省公署參議となり千九百三十二年滿洲國成立後も留任するところありたり尙氏名と字の原音は Li Wei-chou 及 Yin-tang なり(齊々哈爾市)

李 益 三 糧棧代理店鴻順隆支 配人、河北省人

君は河北省昌黎縣人にして千八百九十年(光緒十六年)を以て生る夙に實業界に志して商業に従事し經驗を積む小壯の實務家として糧棧代理店鴻順隆の支配人たり同店は千九百十八年の開設にして賣上年額約八十三萬元を算す奥地

一帯より仕入れ市中日鮮商店及南滿各地に販路を有す尙出資者馬占鰲は奉天地方の名望家として知らる(奉天市大西關大街路北鴻順隆内)

李 延 盛 薦任七等、黑龍江省 公署視學、教育廳勸 務、黑龍江省人

君は又安春と稱し黑龍江省綏化縣人にして千九百二年(光緒二十八年)を以て生る千九百二十九年北平國立師範大學を卒業す會て黑龍江省教育廳督學たりし事あり千九百三十二年滿洲國成立後黑龍江省立第二中學校長を経て同署視學に任ぜられ教育廳勸務となり以て今日に至る(黑龍江省齊々哈爾市)

李 魁 元 裕盛東絲房出資者兼 支配人、山東省人

君は山東省黃縣人にして千八百八十八年(光緒十四年)を以て生る早くより商業界に志し現時裕盛東絲房支配人たり同店は山東黃縣城內裕盛成絲房の大投資者たる李耕讀堂と馬餘慶堂と三名合資經營するところにして仕入先は日本大阪支那上海周村天津に及び販路は吉林黑龍江兩省の各地に至り賣上年額

八十數萬元に達す(奉天城內賈記胡同裕盛東内)

李 閣 忱 糧棧代理店裕豐源支 配人、奉天省人

君は奉天省錦縣西橋人にして千八百九十三年(光緒十九年)を以て生る早くより實業界に志し商務に従事して多年の經驗あり現時米穀商裕豐源の支配人となり賣上年額約七十二萬元を算す出資者は奉天の資産家たる王子除なり千九百二十七年の開設にて遼陽站に倉庫を有し市中の日本商店大連營口等より仕入れ販路極めて廣し(奉天市大北關火神廟街路南裕豐源内)

李 桓 薦任四等、外交部領 事、赤塔在勤 河北省人

君は河北省北平人にして千八百八十年(光緒六年)を以て生る夙に俄國レニングラード大學に學びたる事あり歸國後京兆守備隊司令に任じ其後中華民國レニングラード總領事館勤務たりし事あり千九百三十二年滿洲國成立後外交部領事に任じ現に赤塔領事館在勤として今日に至る(赤塔領事館内)

李 琴 在 書籍文房具印刷材料 販賣福利興出資者兼 支配人、河北省人

君は河北省保定縣人にして千九百年(光緒二十六年)を以て生る夙に商業界に入りて實務に従事し年少よく河北省東鹿縣人張作山と共に書籍文房具印刷材料商福利興を經營し支配人たり千九百二十九年開設の新舖なるが業績漸次見るべきものあり仕入先に大阪乾生棧公順棧上海怡泰盛等あり(奉天市小南門裡路東福利興内)

李 桂 林 前東省特別區長官公 署警務處長 奉天省人

君は又馨山と稱し奉天省海城縣人にして千八百七十二(清同治十一年)を以て生れ夙に吉林軍官團の出身として奉天軍界に入り累進して吉林第七旅長奉天軍第二十六旅長等に歴任したり千九百三十一年滿洲事變後吉長警備司令兼第二十三旅長に任じ吉長地方の治安維持に當る滿洲國成立するや吉林警備第五旅長となり後東省特別區長官公署警務處長に轉じたり尙氏名と字の原音は Li Kwei-lin 及 Hsing-shan なり(哈爾濱市)

李 傑 勳 裕昌元經理 河北省人

君は河北省樂亭縣人にして千八百九十六年五月一日(光緒二十二年)を以て生る千九百十五年樂亭縣立高學校を卒業し實業界に志して直に滿洲に到り新京裕昌源店員となり業務に従事し千九百二十二年副經理に進む翌々年大連裕昌源副經理として轉動したりしが千九百二十八年再び新京裕昌源に到り經理に重用され信任益々厚く次で大同元年大連裕昌源經理となり以て今日に至る(大連市淡路町二電四二九五)

李 佐 臣 綢緞綿布雜貨商順記 貨店主、山東省人

君は山東省黃縣人にして夙に實業界に入り志を立て實務に従事すること多年現時北滿海倫縣に綢緞綿布雜貨商順記貨店を經營出資者となり同縣人王作謀を支配人に擧用して共に業績向上に盡力す開設千九百二十九年四月にして基礎未だ確立するに至らざるが如きも實

上年額約十萬元を算し奥地店舖として良好なる發展をなせり大連哈爾濱に各支店を有す(海倫縣東大街路南順記貨店內)

李 子 安 建成興經營 山東省人

君は山東省蓬萊縣棗村店人にして千八百九十三年(光緒十九年)を以て生る幼少より本村私塾に修學し夙に實業界に志して商業に従事し經驗を積む滿洲に於て身を立て現時大連に在りて建成興を經營し業績を揚げ信用亦厚く小壯實業家として知らる(大連市東郷町一建成興電四二四一・五五七七)

李 子 芹 成裕昌東記油房經理 山東省人

君は山東省牟平縣解甲庄人にして千八百九十年十一月五日(光緒十六年)を以て生る千八百九十七年本村の私塾に入り學成るや實業界に志して芝罘に出で千九百七年同地裕興祥に商業見習として入り業務に従事すること久しく千九百十五年上海裕興祥の店員となり千九百十九年安東裕興祥經理となりし以來青島裕興祥大連成裕昌東記油房大連裕昌祥等の經理を経て千九百二十九年

哈爾濱東裕油坊の開設に盡力し翌年四平街裕興祥經理に任じ大同二年奉天裕興祥經理たり上記大連安東奉天四平街哈爾濱青島芝罘上海等の店舗は何れも同一系統に屬する大店舗たり(大連市三笠町一成祐昌東記電四六三八・六四八九)

李子敬 公濟棧支店人 奉天省人

君は奉天省遼陽縣人にして千八百八十二年(光緒八年)を以て生る夙に實業界に志して多年商業に従事し現時公濟棧の支店人たり同店は千九百十八年の開設にて元東三省官銀號を出資者とし大連哈爾濱新開原鐵嶺公主嶺新民錦縣山城子海龍等に支店を有する大規模にして其仕入先も亦各鐵道沿線にあり實上年額約四百萬元を算すと云はる中央銀行朝鮮銀行等と取引あり(奉天市大西關小什字街營房胡同路西公濟棧内)

李子元 雜貨卸商德昌慶支配人 奉天省人

君は河北省臨榆縣人にして夙に實業界に志して商業に従事す現時錦縣の雜貨

卸商德昌慶の支配人として活躍す同店は大同元年開設に係る新舗なれ共よく出資者同省人李秀峰を助けて經營に當り専ら國內に仕入先を有して朝陽方面に販路を廣げ實上年額約三十萬元を算するに至る(錦縣北街天後宮胡同德昌慶内)

李滋然 源豐東絲房出資者兼支配人 河北省人

君は河北省撫寧縣人にして千八百七十九年(光緒五年)を以て生る夙に實業界に入りて志を立てて現に奉天に於ける潤厚なる資産家として知られ信用亦厚し同じく信望厚き資産家劉興泉と共同出資を以て源豐東絲房を經營し業績を揚げ實上年額約八十萬元を算す奉天市大西關に源豐茂を支店として設置し新京安東方面に販路を有す取引銀行に中央銀行奉天分行朝鮮銀行等あり(奉天市城内東升染坊胡同)

李樹英 靴下工場德豐號出資者 河北省人

君は河北省豐潤縣人にして千九百一年(光緒二十七年)を以て生る實業界に志して商業に従事し小壯を以て現時靴

下工場德豐號に出資す同店は千九百十八年開設にて支配人は河北省寧河縣人趙星階なり趙も亦三十七歳の小壯實業家なるも市中日滿錦糸商奉天紡紗廠及大連營口上海各地より材料を仕入れ實上年額約十二萬元を算するに至る(奉天市小西門外德豐號内)

李樹滋 黑龍江高等法院長 奉天省人

君は又潤生と稱し奉天省梨樹縣人にして千八百八十二年(光緒八年)を以て生れ夙に黑龍江法政學府より奉天法政學堂を卒業す早くより法曹界に入り龍江地方審判廳長を経て千九百二十六年黑龍江高等審判廳長となりしが千九百二十八年之を辭せり滿洲事變勃發するや建國運動に參與盡力し千九百三十二年新國家成立と共に司法部科長に任ぜられ大同元年夏黑龍江高等法院長に轉任す尙氏名と字の原音は H. Sheng 及 Kuo-sheng なり(齊々哈爾市)

李輯五 署事務官、熱河省公會教育科長 奉天省人

君は奉天省法庫縣人にして千九百一年

(光緒二十七年)を以て生る夙に北京大學法律科を卒業す官界に入りて會て奉天省瀋陽縣公署科員を経て依安設治局局長洮南縣科長に進みたる事あり千九百三十二年滿洲國成立後熱河省事務官に任じ教育廳社會教育科長となり以て今日に至る(熱河省承德)

李叔平 滿洲炭礦(株)副理事長 河北省人

君は河北省滄州縣人にして千九百一十一年上海同濟大學工科を卒業す會て直隸省官產清理處測繪科長を経て察哈爾水災善後委員會委員となり張家口市政警備處會辦直隸省長公署技正兼河道測勘處長等に歴任し後普育公司青島辦事處主任寶華實業公司經理たりしが千九百三十二年滿洲國成立と共に執政就任大典籌備處辦事に任ぜられ大同二年一月滿洲煤礦公司專務董事に就任し康德元年五月滿洲炭礦會社副理事長となり今日に至る(哈爾濱道裡外國三道街三十六號)

李春元 署任六等、吉林省公署事務官、警務廳保安科長、奉天省人

君は又鏡清と稱し奉天省營口縣人にして千八百八十四年(光緒十年)を以て生る千九百七年天津北洋大學堂政治科を卒業す會て吉林省濱江警察廳總務科長より直隸省肅寧縣知事に進み次で吉林全省警務處秘書科長たりし事あり千九百三十二年滿洲國成立後吉林公署事務官に任じ警務廳保安科長となり以て今日に至る(吉林省城寶宜胡同)

李俊儒 錢鋪萬億恒支配人 山西省人

君は山西省太原縣人にして千八百五十九年(清咸豐九年)を以て生る夙に商業界に志して實務を習得し殊に金融業に經驗深く信用厚し現時奉天市の錢鋪萬億恒支配人たり同店は寶順珊の出資に係り千八百五十三年の開設と稱する老舗にて公主嶺及山城子に支店を有し貸出年額六十五萬元を算す客筋は主として燒鍋棧棧醬園當舖等なり市中内外銀行と取引あり(奉天市大北關元寶胡同路西萬億恒内)

李純瑛 葯房老福順堂支配人 奉天省人

君は奉天省奉天人にして千八百九十七

年(光緒三十年)を以て生る夙に實業界に入り商務に従事し漸次經驗を積み現時葯房老福順堂支配人にして實上年額約六十五萬元を算すと云ふ開設以來約四十年各地に支店を有し營口北平方面より主に仕入れ販路は奉吉黑三省の委託代理店を通じ範圍廣し出資者は李福堂なり(奉天市大南關大什字街路北老福順堂内)

李紹庚 北滿鐵路督辦 奉天省人

君は又夢白と稱し奉天省瀋陽縣人にして千八百九十五年(光緒二十一年)を以て生れ千九百二十年哈爾濱露國商業學校を卒業す千九百二十五年哈爾濱市政會議員兼特別市副市長となり翌年同市教育局長に昇任したり後浦潮駐在總領事に任ぜられたるも赴任せざりき千九百二十七年東支鐵路理事會理事となり次で代理理事長に昇り千九百三十二年滿洲國成立後同鐵道督辦兼理事長に任ぜられしが後改稱により北滿鐵路督辦として現時所謂北鐵交涉の難局に處す尙氏名と字の原音は Li Shao-Keng 及 Meng-no なり(哈爾濱市)

李 湘 亭 和發永絲房支配人 河北省人

君は河北省武定縣人にして千八百九十年(光緒十六年)を以て生る夙に實業界に志して實務に従事す現に和發永絲房支配人として賣上年額約九十六萬元を算する取引の經營に當る出資者徐文は浙江省紹興縣人にして渡滿奉天居住三十餘年に及び同地の富商たり販路を開原四平街公主嶺方面に及ぼし支店永祿祥を有す(奉天城内官局子胡同和發永内)

李 振 聲 陸軍中將、軍政部勤務、奉天省人

君は又子鐸と稱し奉天遼陽縣人にして千八百七十七年(光緒三年)を以て生る夙に奉天講武堂を卒業す軍界に入り累進して陸軍砲兵第二十七團長に進み次で歩兵第五十四旅長歩兵第五旅長騎兵第十六師長等に歴任し更に吉林陸軍訓練總監に任ぜられたる事あり千九百三十一年滿洲事變勃發の後一派と共に反滿運動の擧に出でたりしが遂に歸順して軍政部に勤務陸軍少將に任ぜられ其後同中將に昇任して今日に至る(吉林省城)

李 新 普 燒鍋業永隆源支配人 河北省人

君は河北省臨榆縣人にして千八百六十三年(清同治二年)を以て生る夙に實業界に志して滿洲に於て身を立つ多年商業に従事し經驗深し千九百年開設に係る燒鍋業永隆源支配人として信用厚く賣上年額約八十三萬元と云ふ泰記錢莊の出資にして市中大東關永隆源酒局小南關大街永隆生酒局及營口永隆海酒店は何れも支店なり(奉天市小北邊門外永隆源内)

李 仁 芝 鮮魚野菜食料品雜貨配人、河北省人

君は河北省深永縣人にして千八百八十年(光緒六年)を以て生る夙に實業界に志して商務に従事すること久しくその經驗を以て王文明と合資經營の鮮魚野菜食料品雜貨販賣仁義和の支配人と云ふ千九百十二年の開設にして撫順に支店を有し市中實を専らとす(奉天市小東門外榮行仁義和内)

李 瑞 麟 書籍文房具印刷材料販賣益順興支配人 河北省人

君は河北省豐潤縣人にして千八百八十三年(光緒九年)を以て生る早くより實業界に志して多年商業に従事す諒允承劉忠元等の經營する同業福順業の出資に係る書籍文房具印刷材料商益順興支配人として活躍し賣上年額約四十五萬元を算するに至る同店は千九百二十一年の開設にして大阪及上海に夫々益順興仕入部あり奉天哈爾濱に支店を置き其販賣先は市中各小賣商印刷局滿洲國各官衙等にして主要銀行と取引を有す(奉天市小北門裡大街路東益順興内 電話二七六六)

李 西 珍 北寧瑯琊工廠出資者、奉天省人

君は奉天省安東縣人にして千八百九十三年(光緒十九年)を以て生る夙に實業界に志して實務の經驗を得瑯琊鐵器製造業北寧瑯琊工廠を經營す同廠は千九百二十九年開設の新舖なるがよく業績を揚ぐ仕入先は大坂方面に求め奉天を中心とする各鐵道沿線を販路とす(奉天市總站前路南北寧瑯琊工廠内)

李 星 臣 絲房及大藥店世一堂支配人、河北省人

君は河北省撫寧縣人にして早くより實業界に志して商業に従事し現時賣上年額約八十萬元を算する絲房及大藥店世一堂の支配人たり同店は河北省人慶餘堂の出資に係り大阪上海大連方面より仕入をなし支店に吉林市北支店の外に新京及哈爾濱に夫々世一堂あり(吉林省城西大街世一堂内)

李 祖 培 薦任六等、立法院事務官、秘書廳文書科長、河北省人

君は河北省人にして夙に奉天法政專門學校を卒業す曾て北京衆議院秘書を経て開通縣知事に任じ後金川縣知事奉天市政公署總省處長等を歴任したる事あり千九百三十二年滿洲國成立後立法院事務官に任じ秘書廳文書科長として今日に至る(新京市東四道掛立法院秘書廳文書科内 電話四一六三)

李 同 詩 南滿製酒公司出資者、山東省人

君は山東省黃縣人にして千八百九十七年(光緒二十三年)を以て生る夙に實業界に志し小壯にして南滿製酒公司の

出資者兼支配人たり同公司是千九百二十六年の開設にして陳孟遠を共同出資者とし露國酒釀造販賣並に紙捲煙草代理販賣をなす從て仕入先には東亞煙草會社英美煙公司南洋兄弟煙草公司上海萬泰洋行雙發合造酒公司等あり(奉天市附屬地千代田通二七南滿製酒公司内 電話三七九八)

李 槃 勳二位、特任、最高檢察廳長、憲法制度調査委員會委員、河南省人

君は又古民と稱し河南省光州縣人にして千八百七十七年(光緒三年)を以て生る夙に日本に留學し法政大學を卒業す歸國後河南法政專門學校教授より法制局長となり次で最高法院東北分院推事たりし事あり千九百三十二年滿洲國成立するや東北行政委員會建國會議奉天省政府代表となり次で司法部に任官し擧げられて最高檢察廳長の顯職に特任せられ傍ら憲法制度調査委員會委員として大いに期待される康徳元年五月勳二位に叙せられ景雲章を賜はる尙氏名の原音は Li Pan なり(新京市西三道街 電話三六九〇)

李 斌 元 元滿洲里市長兼東支鐵道交涉分局專員、奉天省人

君は又子惠と稱し奉天省海城縣人にして千八百九十年(光緒十六年)を以て生れ曾て奉天軍駐京司令部秘書長として其才幹を張景惠に知られ其信任を得て張に従ひ張の察哈爾都統時代頻りに活躍するところあり其後哈爾濱市政公所に入り次で千九百三十年滿洲里市長兼東支鐵道交涉分局專員に任じ滿洲事變前に及びたり尙氏名と字の原音は Li Bin Yuan 及 Tsai Hui なり

李 普 霖 昌圖城內商務會長、酒造業、富興泉主

君は夙に實業界に志して商業に従事し傍ら釀造業を經營して同地方の資産家たりその出資する富興泉は千九百七年の開設に係り始め元盛泉と稱したりしが清末に推ひ改稱して現在に至る其材料は主として鐵嶺安東奉天方面より仕入れ販路は専ら地賣なり滿洲中央銀行昌圖支行を取引銀行とし業績益々揚る尙推されて昌圖城內商務會長の職にあり(昌圖東大街富興泉内)

李文蔚 吉林高等檢察廳長 奉天省人

君は又味秋と稱し奉天省海城縣人にして千八百八十七年(光緒十三年)を以て生れ夙に吉林法政專門學校を卒業す早くより法曹界に入り會て吉林地方審判廳推事より同高等審判廳長及廳長を経て吉林地方院長たりし事あり千九百三十二年滿洲國成立後吉林高等檢察廳長に任ぜられ今日に至る尙氏名と字の原音は Li Wen-yu 及 Wei-chiu なり(吉林市)

李文中 趙興隆系房支配人、山東省人

君は山東省黃縣人にして千八百七十五年(光緒元年)を以て生る早くより商業に志し滿洲に入り實務に就き現時賣上年額約百萬元を算する趙興隆系房の支配人として出資者趙積安堂を補佐して經營をなす同店は支店を奉天市内の外新京撫順吉林等に置き開設以來百餘年の經驗を以て活躍し販路網は四洮路沿線に及ぶ(奉天市小北關九門外趙興隆内)

李文炳 陸軍中將、軍政部勳 務 奉天省人

君は早くより軍警界に入り會て吉林軍顧問たりし事あり吉林の熙治の下にあり滿洲事變後克く吉林獨立に盡力し勳匪軍司令たり千九百三十二年新國家成立に及び陸軍少將吉林警備第二旅長に任ぜられ後陸軍中將に昇任し以て今日に至る尙氏名の原音は Li Wen-ping なり(吉林市)

李文匯 薦任六等、吉林省公署事務官、總務廳勳 務 奉天省人

君は又從周と稱し奉天省錦縣人にして千八百九十六年(光緒二十二年)を以て生る千九百十八年奉天省立師範學校を卒業す初め錦縣高等小學校長を経て河洛道尹公署行政科長となり千九百二十七年吉林軍務公署軍需處第三科長に任じ千九百三十一年同省長公署軍政廳第三處科長吉林軍糧廠副長等に歴任したりしが大同二年吉林省公署事務官に任じ總務廳勳務となり以て今日に至る(吉林省城)

李葆華 薦任五等、黑龍江省公署理事官、總務廳勳 務 奉天省人

君は奉天省遼陽縣人にして千九百一年(光緒二十七年)を以て生る夙に日本に留學し千九百二十九年東京帝國大學工學部應用化學科を卒業す歸國後會て黑龍江省城商埠市政局工程科長たりし事あり其後黑龍江省公署秘書官に任ぜられ總務廳勳務たり康德元年七月同署理事官に昇任す(黑龍江省公署總務廳内)

李慕嶠 滿洲石油(株)監事 河北省人

君は河北省天津縣人にして千九百一年(光緒二十七年)を以て生れ夙に上海同濟大學工科を卒業す青島膠澳商埠督辦公署工程課建築股長工程事務所工程司兼建築部主任水道部主任を経て同公署官產清理處評價委員測量隊長清丈課長となり次で天津清丈測量處主任計逆軍交通總司令部參議鎮江關監督辦公署秘書等を歴任して一時實業界に轉じ天津實業公司總理綏遠風社墾殖公司監察天津謙益公司董事等となり其後青島電話局工務科長工程司庶務股青島

無線電話籌備處長青島港政局小港分所長兼工程司代理等を経て陝西全省公路局長總工程師兼工務科長となり後陝西建設廳技正たりしが滿洲石油會社設立に當り入りて同社監事となる(新京市頭溝東八條通一八)

李明遠 哈爾濱特別市道外商會副會長、滿洲計器(株)董事、大滿洲忽布麥酒(株)監査役 河北省人

君は河北省樂亭縣人にして千八百七十八年(光緒四年)を以て生れ早くより實業界に入り地方商業機關の公職に就く千九百十六年より千九百二十二年迄濱江縣商會頭に任じ次で同商會副會長となり千九百二十六年同會長に任じ後會長を辭して同會常務委員となり大同元年十二月辭任し同時に副會長に轉じ大同二年七月同會の改稱して哈爾濱特別市道外商會となるや引續き副會長となり同記商場經理を兼ね尙前記各會社の重役たり(哈爾濱道外正陽木街二七)

李銘書 簡任一等、吉林省公署理事官、民政廳長 奉天省人

君は又子箴と稱し奉天省黑山縣人にして

て千八百七十八年(光緒四年)を以て生れ會て黑龍江省督軍公署秘書吉林森林局長兼探金局長等に歴任したる事あり千九百二十六年吉海鐵路工程局總辦に任じ後改稱と共に同鐵路管理局總辦として千九百三十一年に及びたり同年滿洲事變勃發後熙治を助けて吉林獨立に盡力し後吉林省公署秘書長となりしが滿洲國成立に及び吉林省公署理事官に任じ現に民政廳長たり康德元年六月簡任一等に昇叙さる尙氏名と字の原音は Li Ming-shu 及 Yu-shen なり(吉林市)

陸叔言 中國無線電材料有限公司支店 奉天省人

君は浙江省南京人にして千八百九十八年(光緒二十四年)を以て生る夙に實業界に志して商業に従事し滿洲に入りて身を立つ現時無線電材料及一般電料器商中國無線電材料公司の支配人たり同社は千九百二十五年の開設にして公稱資本一百萬元の株式組織なり吉林黑龍江兩省各地に店員を派し販賣に當らしめ賣上年額約三十萬元と云ふ(奉天市南市場三經路中國無線電材料公司内)

律長庚 北滿鐵路稽核局長 奉天省人

君は又夢符と稱し奉天省海城縣人にして千八百九十二年(光緒十八年)を以て生れ夙に天津新學院大學部を卒業す會て日本及加奈陀に鐵道視察の爲め派遣せられたる事あり歸國後平綏鐵路事務處長を経て陸軍交通總司令部運輸處長洮昂鐵路事務處長等に歴任したり千九百三十二年滿洲國成立と共に東支鐵道稽核局長に轉任し後改稱により北滿鐵路稽核局長たり尙氏名と字の原音は Li Chang-keng 及 Meng-fu なり(哈爾濱市)

劉亞唐 黑龍江省肇州縣長 奉天省人

君は又興沛と稱し奉天省梨樹縣人にして千八百九十一年(光緒十七年)を以て生る千九百九年奉天高等巡警學堂を卒業す會て黑龍江省肇州清鄉局長たりしが後擧げられて同縣長となり以て今日に至る(黑龍江省肇州縣)

劉鳴煥 薦任六等、奉天省公署秘書官、總務廳勳 務 江西省人

君は又舜岐と稱し江西省南城縣人にして千八百八十一年(光緒七年)を以て

生る千九百十年湖南法政學堂を卒業す官界に入り曾て湖南提法司屬官を経て奉天軍械廠辦事員となり次で東三省兵工廠統計科長臨時治安維持會委員等を歴任し其後奉天市政公署秘書たりしが現時奉天省公署秘書官に任ぜられ總務廳勤務たり(奉天大東邊外黑龍江街三六)

劉 維 漢 黑龍江被服工廠長 奉天省人

君は又繼武と稱し奉天省洮南縣人にして千八百八十五年(光緒十一年)を以て生れ卒伍より身を起したる立志の人なり軍界に於て累進し第二十九師上校副官長軍事顧問團長等に歴任し滿洲事變勃發後は馬占山の說得各軍領の慰撫斡旋に努力し克く北邊軍界の動搖を防ぎたり千九百三十二年滿洲國成立するや擧げられて黑龍江被服工廠長となる尙氏名と字の原音は Liu Wei-han 及 Ohi-wan なり(齊々哈爾市)

劉 維 清 奉天省臨江縣長 奉天省人

君は又紹先と稱し奉天省瀋陽縣人にして千八百七十八年(光緒四年)を以て生

る風に東京宏文學院を卒業す官界に志して各地に任官し千九百三十一年滿洲事變後新國家成るや大同元年奉天省新民縣長に擧げられ次で同省臨江縣長に轉じ以て今日に至る(奉天省臨江縣)

劉 燭 蔡 滿洲中央銀行駐吉理 事 吉林省人

君は又聲秋と稱し吉林省舒蘭縣人にして千八百九十年(光緒十六年)を以て生れ風に日本に留學して法政大學を卒業す歸國後延吉道尹秘書を経て吉林交涉署秘書省政府秘書等に歴任したる事あり千九百三十二年滿洲國成立するや吉林公省長官署交際處長に任じ又吉林永衡官銀號總辦たりしが大同元年夏中央銀行の設立により入りて同行吉林駐在理事となり傍ら滿洲中央銀行繼承資産審定委員會幹事たり尙氏名と字の原音は Liu Tzu-ka 及 Hsing-chiu なり(吉林省)

劉 允 升 黑龍江省會公安局長 山東省人

君は又守忱と稱し山東省日照縣人にして千八百八十二年(光緒八年)を以て生れ風に奉天警備傳習所を卒業す軍警

界に入り奉天黑龍江各省の警察官を経て黑龍江全省警察傳習所長に累進し後同省警備隊營務處參議同省公安局督察長等に歴任したり千九百三十一年滿洲事變勃發するや克く齊々哈爾の治安維持に當り時局收拾に善處したり新國家成るに及び黑龍江省會公安局長となれ尙氏名と字の原音は Liu Yun-sheng 及 Shou-chun たり(齊々哈爾市)

劉 蔭 三 棧棧代理店同合成出 資者兼支配人 河北省人

君は河北省臨榆縣人にして千八百七十一年(清同治十年)を以て生る風に實業界に志して多年實務に従事し特産物取扱に經驗あり千九百十六年開設の棧棧代理店同合成に福勝公棧棧と共同出資し且つ支配人として賣上年約約五十萬元を掲ぐ奥地一帶より仕入れ市中の日本商店及南滿各地を販路とす(奉天市大北關上頭同合成内)

劉 遠 述 奉天市政公署秘書 關東州人

君は關東州雙陽市人にして千九百零年(光緒二十六年)を以て生る風に日本に留學し千九百二十三年首長縣立農學

校を卒業す歸國後關東州公學堂教員より實業界に志し曾て開原取引所信託會社調査主任となり次で奉天省城稅捐總局課長たりし事あり千九百三十二年滿洲國成立後奉天市政公署秘書處勤務たり(奉天市政公署秘書處内)

劉 遠 來 阜增祥總經理、西崗 商會常任董事、 關東州人

君は關東州大連市外凌水河子樂家屯會人にして千八百八十四年正月二日(光緒十年)を以て生る千八百九十一年本村私塾の修學成るや實業界に志して直に金州に到りて埠增祥に入り實務に従事して經驗するところあり千八百九十九年西合慶を開設して業績を揚げし事ありしが次で千九百一年大連に阜增祥を創設して經營の任に當り信用厚く隆昌を致し現時傍ら推されて西崗商會常任董事たり(大連市泰山街二二三電二一六八七)

劉 恩 格 簡任二等、立法院祕 書長、奉天省人

男 有 穆 新京地方檢察廳候補 檢察官勤務 君は又鯉門と稱し奉天省遼陽縣人にし

て千八百九十一年(光緒十七年)を以て生れ風に奉天法政學堂を卒業し更に日本に留學して日本大學法律專科を卒業す歸國後政界に入りて千九百十二年第一回民國國會に衆議院議員に選舉され且憲法起草委員となる千九百十七年臨時參議院議員同院内全委員長となり第二回國會組織法を起草す翌年第二回國會衆議院議員且副議長に選ばれ二等大授嘉禾章を受く千九百十七年南北和議會に際し北京政府和議代表となり一等大授嘉禾章を受け千九百二十年衆議院議長を代理し久しく立法行政に盡せし功績により徐大總統より一等大授嘉光嘉禾章を授けられたり千九百二十一年察哈爾省興和道尹に任じられしが翌年國會恢復と共に衆議院に列席して道尹を辭せり千九百二十三年曹錕の贈賄選舉に反對して議員を辭去す翌年段祺瑞執政政府參政に特任せられ千九百二十五年國憲起草委員會首席理事兼委員長代理となり翌年國會閉鎖と共に解任せり其後専ら憲法學詩文等の研究をなせしが千九百三十二年滿洲國成立後擧げられて立法院祕書長となり傍ら官衙建築計畫委員會委員として今日に至る著書に「今勇齋詩文集」「遼海詩

劉 學 芬 泰華樓主 山東省人

君は山東省福山縣院下村人にして千八百九十年十一月二十四日(光緒十六年)を以て生る風に本村國民學校に修學し實業界に志す曾て北平に出で同地著名の料理業東興樓に入りて實務に従事し經驗するところあり現時大連に於て泰華樓總經理として信用厚く業績を揚げ(大連市盛都通八一泰華樓電四六七)

劉 鈞 仁 奉天省岫巖縣長 江蘇省人

君は又石農と稱し江蘇省鎮江縣人にして千八百九十六年(光緒二十二年)を以て生る千九百十七年江西法政專門學校を卒業す滿洲に於て身を立て大同元年北京滿鐵公所囑託より轉じて奉天省岫巖縣長に任ぜられ以て今日に至る(奉天省岫巖縣)

劉 敬 宜 前東支鐵道管理局工 務處長、河南省人

君は又本義と稱し河南省開封縣人にし

て千八百九十七年(光緒二十三年)を以て生れ夙に米國に留學してミシガン大學を卒業す千九百二十四年歸國後東北大學教授を経て千九百二十六年北京航空部專門委員航空日報主筆北京法政專門學校教授等に任じ翌年奉天軍第三四方軍團參議河南省實業廳長河南全省水利局長河北守備軍外交科長等に任じ藩復内閣成るや入りて農工部次長に任ぜられたり千九百二十八年東北邊防軍司令官公署顧問に轉じ翌年東支鐵道管理局工務處長となり滿洲國成立後も一時留任するところありたり尙氏名と字の原音は Liu Ching-i 及 Fen-i なり

劉 敬 齋 絲房子及雜貨商天合利支配人、山東省人

君は山東省黃縣人にして千八百六十九年(清同治八年)を以て生る早くより實業界に入り現時同縣の富豪單少卿の出資する絲房子及雜貨商天合利の支配人たり同店は開設後二百年を経過せる老舖にして奉天の天合輔天合東天合源等を始め各地に支店十餘ヶ所を有するもの販路を吉林黑龍江各省に及ぼし賣上年額八十萬元と云ふ取引銀行に正金銀行中央銀行奉天分行等あり(奉天城)

裡西平街路南天合利内)

劉 慶 鑑 薦任、宮内府内廷官近侍處總務科長、江西省人

君は又剛伯と稱し江西省南城縣人にして千八百七十三年(清同治十二年)を以て生る前清舉人の出なり早くより官界に入り會て廣東財政廳長に進み次で財政部庫藏司長より鹽務署總務處長等に歴任し千九百三十二年滿洲國成立後執政府内廷官に任ぜられ内廷局總務科長たりしが改稱により現に宮内府近侍處總務科長たり(新京市宮内府内)

劉 元 任 薦任六等、文教部事務官、總務司秘書科勤務、福建省人

君は又覺亭と稱し福建省長樂縣人にして千八百七十七年七月二十九日(光緒三年)を以て生れ前清の舉人なり千九百四年内閣中書を経て練兵處調練學堂國文教員兼軍令司文牘に任じ千九百七年陸軍部主事翌年軍諮府第一廳副官となり千九百十二年陸軍部陸軍會計審査處副官兼文牘に轉じ翌年察哈爾邊口稅局局長代理に任じ翌年察哈爾財政廳科長として派遣され實業廳科長を兼ね轉

吉林省撫遠縣長代理兼清鄉局長たりしが後擧げられて同省鶴河縣長に任じ以て今日に至る(吉林省鶴河縣)

劉 昭 吉林省和龍縣長、湖北省人

君は又幼谷と稱し湖北省漢陽縣人にして千八百八十三年(光緒九年)を以て生る夙に日本に留學し千九百九年中央大學法科を卒業す歸國後官界に入り會て吉林民政廳副科長たりし事あり千九百三十二年滿洲國成立後吉林省和龍縣長に任ぜらる(吉林省和龍縣)

劉 心 裁 山貨細皮及果物商同德潤支配人、奉天省人

君は奉天省錦縣人にして千八百八十九年(光緒十五年)を以て生る夙に實業界に志して商業に従事し現時賣上年額一百三十萬元を算する山貨細皮及果物商同德潤の支配人たり同店は千八百九十五年開設にして出資者河北省昌黎縣人劉家亭は家財八十萬元と稱せらる、資産家たり山貨及細皮の仕入先は吉林黑龍江兩省瀋海路沿線各地なるが果物類は之を河北省昌黎臨榆方面よりす天

津北平上海大連營口等に販路を有し奉天皇姑屯の同德潤昌黎縣の同德潤は共に支店なり(奉天市小北門裡淡泊胡同路北同德潤内電四二四二九)

劉 瑞 麟 熱河省平泉縣長、熱河省人

君は又鳳閣と稱し熱河省平泉縣人にして千八百八十二年(光緒八年)を以て生る夙に北平高等警官學校を卒業す軍警界に入りて會て熱河省平泉縣警察所長を経て同警察廳警正維持會委員長等に任ぜられしが大同二年平泉縣長に擧げらる(熱河省平泉縣)

劉 正 望 薦任六等、黑龍江省公署事務官、教育廳社會教育科長、黑龍江省人

君は又至元と稱し黑龍江省綏化縣人にして千八百七十八年(光緒四年)を以て生る夙に官界に入りて千九百九年遼州稅捐局長に進み次で河北省高陽縣長より黑龍江省農礦廳秘書處科長同教育廳秘書處科長等に歴任したる事あり千九百三十二年滿洲國成立後黑龍江省公署事務官に任ぜられ教育廳社會教育科長として今日に至る(黑龍江省公署教

じて集寧縣統捐局長を奉職す千九百二十五年河北省武強縣知事に任じ其後實業部辦事員河北肅寧縣清理債務主任を経て千九百二十九年綏遠民政廳秘書たりしが滿洲國成立後大同元年八月文教部事務官となり總務司秘書科に勤務以て今日に至る(新京市大馬路滿洲支社)

劉 效 現 元文政東西大芝事務局長、奉天省人

君は又次焉と稱し奉天省遼陽縣人にして千八百八十九年(光緒十五年)を以て生れ夙に奉天法政專門學校を卒業す安奉鐵路警察局長兼口警察廳長を経て奉天商埠局總辦胡漢陽局長東北交通委員會委員等に歴任し千九百二十六年察哈爾實業廳長兼全區實業局總辦に任じ千九百二十九年文政東西大芝事務局長等に任ぜられ千九百三十一年に及びたり尙氏名と字の原音は Liu Hing-shun 及 Fen-i なり

劉 鴻 謨 吉林省瀋陽縣長、奉天省人

君は又龍典と稱し奉天省瀋陽縣人にして千八百八十五年(光緒十一年)を以て生る夙に奉天警察學校を卒業す會て

育國內)

劉 世 忠 滿洲中央銀行駐江理事、河北省人

君は又子貞と稱し河北省臨榆縣人にして千八百八十九年(光緒十五年)を以て生れ早くより實業に従事す會て奉天商業銀行山城鎮分行長海龍農工銀行經理等を経て千九百二十一年黑龍江廣信公司營業股長となり又同公司納河分公司經理たり千九百三十年同公司の黑龍江省官銀號と改組後實業科長に任じ翌年副經理に進み滿洲事變後總經理に昇任し千九百三十二年遂に黑龍江省官銀號總辦に任ぜられたりしが同年夏滿洲中央銀行成立するや同行黑龍江駐在理事として今日に至る尙氏名と字の原音は Liu Shih-chang 及 Fen-i なり(齊々哈爾市)

劉 仙 洲 大連儲蓄公司經理、山東省人

君は山東省福山縣人にして千八百九十二年八月二十一日(光緒十八年)を以て生る千八百九十八年より木村私塾に漢文を修學し實業界に志して大連に出で千九百七年同地裕盛和に入り商業を

習得するところあり翌年大連儲蓄公司に就任兩替業に従事す現時尙同公司の重要地位にありて業績を掲げ信用厚し千九百十七年大連錢鈔取引組合副組合長に就任し次で千九百二十五年同組合長たり千九百二十二年及千九百二十六年二回に亘り大連市會議員に選任され又千九百二十六年及翌年共に大連市商會副會長に選任せられし外千九百二十六年には大連山東同郷會顧問に選任せらるゝが如く同地小壯實業家として知らるゝ有力者なり(大連市愛宕町四〇大連儲蓄公司電五六二五)

劉澤漢 吉林省東寧縣人

君は山東省黑龍人にして千八百九十四年(光緒二十年)を以て生る千九百十六年吉林師範學校を卒業す千九百三十二年滿洲國成立後大同二年吉林省東寧縣清郷局長より同縣長に昇任され以て今日に至る(吉林省東寧縣)

劉廷璽 錢舖豫豐長支配人 河北省人

君は河北省撫寧縣人にして千八百七十四年(清同治十三年)を以て生る早く

より實業界に入り金融業に永き經驗を有す現時錢舖豫豐長の支配人として貸出年額五十五萬元を算す同店は河北省人にして奉天の富商李伯勳の出資に係る李は家財二百萬元と稱し支店六ヶ所を有し投資額二十萬元に及ぶ千八百七十五年の開設にして市内主要銀行と取引す(奉天城裡鼓樓西路北豫豐長内)

劉廷選 前黑龍江省公署參議 吉林省人

君は又梓陽と稱し吉林省伊通縣人にして千八百八十三年(光緒九年)を以て生れ夙に奉天法政專門學校を卒業す早くより官界に入り會て河南禁煙總局會辦綏遠道尹綏遠市政局長同禁煙善後總局總辦等に歴任したる事あり千九百十九年黑龍江省政府委員兼民政廳長に任ぜられ千九百三十一年滿洲事變後黑龍江全省清郷總局副局長として同地方劇匪治安維持に當りたり新國家成立と共に黑龍江省公署民政廳長に轉じたりしが大同元年夏同省公署參議たりし事あり尙氏名と字の原音は Liu Tsin-jan 及 Tsu-yang なり(齊々哈爾市)

劉哲民 細皮商業養成出資者 兼支配人、河北省人

君は河北省山海關人にして千八百七十五年(光緒元年)を以て生る早くより實業界に入りて商業に従事し王敬宜曹裕民等五名と共同出資して現時細皮商同昌店を經營し且つ支配人たり同店は開設千九百二十年にして吉林黑龍江兩省及濟海路沿線の毛皮集散地に店員を派して仕入れ主として英米露等の奉天在住外商を顧客とし實上年額約七十萬元を算す取引銀行に中央銀行分行あり(奉天小西門裡清德胡同路北聚成内)

劉天成 奉天省輯安縣長 河南省人

君は又靜孫と稱し河南省商城縣人にして千八百八十八年(光緒十四年)を以て生る千九百十四年河南法政專門學校を卒業す官界に志し滿洲に於て身を立て會て奉天省鐵嶺縣公署秘書たりし事あり千九百三十一年滿洲事變後大同元年奉天省輯安縣長に擧げらる(奉天省輯安縣)

劉東藩 黑龍江省泰來縣長 奉天省人

君は又克忱と稱し奉天省遼中縣人にして千八百八十三年(光緒九年)を以て

生る千九百十年奉天兩級師範學校數理科を卒業す會て河北省晉縣長たりし事あり千九百三十一年滿洲事變勃發後新國家成るや大同二年黑龍江省泰來縣長に任ぜらる(黑龍江省泰來縣)

劉德權 前黑龍江省公署理事 官民政廳長 奉天省人

君は又鈞衡と稱し奉天省瀋陽縣人にして千八百八十六年(光緒十二年)を以て生れ夙に日本に留學し陸軍士官學校騎兵科を優等の成績にて卒業す千九百十一年既に陸軍少將に昇進し爾後黑龍江省都督府參謀長を経て同省陸軍會計審計處長第二混成旅長廣東廣西巡閱使振武軍總參謀長哈爾濱警務總局長中東路々警處長に歴任し千九百二十三年黑龍江省軍官養成所總辦同省邊防軍警務處總辦清郷局總辦等となり千九百二十五年黑龍江省全省警務處長兼省會警察廳長市政局長全省警備隊總辦等の要職を歴任す千九百二十七年特任親威將軍補授陸軍中將の榮位に就きしが千九百三十二年滿洲國成立後黑龍江省公署警察廳長に任ぜられ後同省理事官民政廳長に轉じ前任二等を以て待遇せられしが大同二年八月辭任す尙氏名と字の原

音は Liu Te-chuan 及 Chuan-heng なり(黑龍江省齊々哈爾市)

劉德麟 薦任七等、哈爾濱警署長、奉天省人

君は又鄉五と稱し奉天省瀋陽縣人にして千八百八十四年(光緒十年)を以て生る千九百十六年奉天陸軍二十八師軍官團の出身なり軍警界に入りて東省特別區第三區警署第三署長に進み次で哈爾濱保安警察總隊長たりし事あり千九百三十二年滿洲國成立後大同二年哈爾濱警察廳警正に任ぜられ香坊警察署長となりて今日に至る(哈爾濱市)

劉負初 薦任一等、民政部理官、總務司秘書科長、四川省人

君は又寄緣と稱し四川省節縣人にして千八百八十九年(光緒十五年)を以て生る千九百八年福建法政學堂を卒業す官界に入り會て福建都督府秘書官を経て滿洲に轉じ察哈爾財政廳秘書課長より東省特別區行政長官公署總務課長たりし事あり千九百三十二年滿洲國成立するや民政部秘書官に任ぜられ總務司秘書科長となり康德元年七月同部理

事官に昇任し以て今日に至る(新京市西三道街路北大興長院内電三五四九)

劉文範 内外雜貨各種農具商 德聚和出資者兼支配人、山東省人

君は山東省黃縣人にして千八百六十七年(清同治六年)を以て生る夙に實業界に入りて身を立て商業に従事して現時實上年額數十萬元を算する内外諸雜貨及各種農具商德聚和の出資者兼支配人として活躍す同店は同介臣周寶山劉長順と共同出資にて支店通聚隆を奉天附屬地に置き大阪上海北平天津方面より仕入す奉天市の外に城西各縣及瀋海路沿線に販路を有す(奉天市鼓樓西牌樓胡同路南德聚和内)

劉文寶 吉林省農安縣長 湖北省人

君は又雲根と稱し湖北省漢陽縣人にして千八百七十七年(光緒三年)を以て生る夙に日本に留學し千九百七年法政大學法科を卒業す歸國後吉林警官高等學校教授たりしが千九百三十二年滿洲國成立後吉林省農安縣長に任ぜられ以て今日に至る(吉林省農安縣)

劉 堃 奉天西安地法院長
山東省人

君は又承久と稱し山東省掖縣人にして千八百八十九年(光緒十五年)を以て生る夙に奉天法政專門學校を卒業す早くより法曹界に入りて海龍奉天新民各縣檢察員より瀋陽及復縣法院推事たりし事あり千九百三十二年滿洲國成立後奉天西安地法院長に任ぜられ以て今日に至る(奉天省西安)

劉 鳳 書 綢緞洋雜貨商隆升慶
支配人、河北省人

君は河北省臨榆縣人にして早くより實業界に志し商業に従事するところあり滿洲に於て身を立て千九百三年開設に係る綢緞洋雜貨販賣隆升慶の支配人として活躍す同店は錦縣人侯翰卿の出資にして上海大連奉天方面より仕入れ地場及近郷に販路を有し賣上年額約十五萬元と稱す同地内に支店二箇所あり(錦縣西街路南隆升慶内)

劉 寶 麟 薦任三等、專賣局理
事官、安東專賣署勳
務、奉天省人

君は奉天省營口縣人にして千八百九十年(光緒十六年)を以て生る夙に營口

縣立師範學校を卒業す曾て東北陸軍二十七師第一營軍需長に進み次で靜海縣稅捐局長より吉林第九旅騎兵團長に轉じ千九百三十二年滿洲國成立後吉林軍第一旅長に任ぜられしが後專賣局事務官となり安東專賣署勳務たり康徳元年七月同局理事官に昇任す尙氏名の原音は Liu Paolin なり(安東市)

劉 卜 忱 陸軍上校、中央陸軍
訓練處教導隊長
奉天省人

君は奉天省海城縣人にして千九百年(光緒二十九年)を以て生る夙に北京陸軍大學を卒業す軍界に入りて東北陸軍歩兵第三十九團第三營長に進み次で三四方面軍團部上校科長より第二十七師上校參謀長同第十一團長等に歴任したる事あり現時滿洲國陸軍上校に任ぜられ中央陸軍訓練處教導隊長たり(奉天大東門裡金王府)

劉 夢 庚 前軍政部及黑龍江省
公署高等顧問、札
林業籌辦處總辦
河北省人

君は又炳秋と稱し河北省撫寧縣人にして千八百八十年(光緒六年)を以て生

れ夙に北京軍醫學校を卒業す保定軍病院長を経て天津造幣廠長直隸將軍署參議兼第二十六師北京辦事處長等に歴任したる事あり千九百三十二年滿洲國成立するや入りて軍政部及黑龍江省公署高等顧問に任じ傍ら黑龍江札免林業籌備處總辦たり尙氏名と字の原音は Meng Keng 及 Ting chiu なり(哈爾濱市)

龍 桂 林 糧棧代理店永生和支
配人、河北省人

君は河北省昌黎縣人にして千八百九十五年(光緒二十一年)を以て生る早くより實業界に志し商業に従事す龍雨田を出資者とする糧棧代理店永生和支配人として賣上年額約五十八萬元を算す小壯の實務家たり同店は千九百四年の開設に係り市中小西關に永生茂糧車店の支店あり(奉天市皇姑屯後街路東永生和内)

龍 需 軍政部秘書
黑龍江人

君は又雲と生稱し黑龍江省肇東縣人にして千八百九十四年(光緒二十年)を以て生る夙に陸軍官學校第五期騎兵科を卒業す曾て陸軍官學校上尉分隊長を

凌 陸 簡任二等、興安北分
省長、內蒙古人
君は又雲志と稱し內蒙古索倫正黃旗達呼爾人にして勳一位參議府參議憲法制度調査委員會委員貴福の長男にて前清貝勒衙門貝爾の旗長たる名族の出なり曾て呼倫貝爾副都統公署左右兩廳會辨を経て東三省保安總司令部及蒙古宜撫使顧問に任じ其後呼倫貝爾副都統公署左廳長に任ぜられし事あり滿洲事變勃發するや父貴福等と共に內蒙早に於て新國家建設に盡力し反對を排撃し千九百三十二年滿洲國成立するや興安北分省長に擧げられ今日に至る尙氏名と字の原音は Lang Sheng 及 Ym-chih なり(興安北分省呼倫貝爾市)

凌 陸 簡任二等、興安北分
省長、內蒙古人

君は又雲志と稱し內蒙古索倫正黃旗達呼爾人にして勳一位參議府參議憲法制度調査委員會委員貴福の長男にて前清貝勒衙門貝爾の旗長たる名族の出なり曾て呼倫貝爾副都統公署左右兩廳會辨を経て東三省保安總司令部及蒙古宜撫使顧問に任じ其後呼倫貝爾副都統公署左廳長に任ぜられし事あり滿洲事變勃發するや父貴福等と共に內蒙早に於て新國家建設に盡力し反對を排撃し千九百三十二年滿洲國成立するや興安北分省長に擧げられ今日に至る尙氏名と字の原音は Lang Sheng 及 Ym-chih なり(興安北分省呼倫貝爾市)

梁 禹 襄 簡任二等、北滿特別
區公署理事官、教育
處長、福建省人

君は又芬如と稱し福建省閩侯縣人にして千八百八十二年十月十五日(光緒七年)を以て生れ夙に奉天法政學堂に學ぶ千九百十五年奉天巡按使公署內務科主稿に任じ翌年同署改稱により奉天省長公署第三科主稿に轉ず千九百二十一年奉天綏中縣知事となり其後奉天市政公所總務課長直隸豐潤縣知事を經て千九百二十六年察哈爾都統署政務廳長に昇任し一時察哈爾交涉署特派交涉員を兼ねたり千九百二十八年東三省保安總司令部上校秘書より東省特別區長官公署秘書長に任じ千九百三十年同區地畝管理局長を兼任す此の間任官中の功績により三等嘉章五等文虎章を受けたり滿洲國成立後大同元年十二月東省特別區教育廳長に擧げられ大同二年六月改稱により北滿特別區公署教育處長に任

妻 陳琇釵 一八九〇(光緒一六)
年生

男 煦 一九一七(民國六)年
生

女 佩 一九一九(同八)年
生

君は又素文と稱し奉天省新民縣人にして千八百七十七年(光緒三年)を以て生れ夙に北京大學を卒業す曾て北京政府內務部司長農商部工商司長に任じたりし事あり千九百三十一年滿洲事變後奉天省實業廳長に任ぜられしが新國家成立後奉天市政公署秘書となる尙氏名と字の原音は Liang Su-wen 及 Su-wen なり(奉天市小南門内張蓋胡同九五)

梁 玉 書 奉天市政公署秘書
奉天省人

君は又素文と稱し奉天省新民縣人にして千八百七十七年(光緒三年)を以て生れ夙に北京大學を卒業す曾て北京政府內務部司長農商部工商司長に任じたりし事あり千九百三十一年滿洲事變後奉天省實業廳長に任ぜられしが新國家成立後奉天市政公署秘書となる尙氏名と字の原音は Liang Su-wen 及 Su-wen なり(奉天市小南門内張蓋胡同九五)

梁 桂 才 薦任六等、奉天省公
署技佐、民政廳勳務
奉天省人

君は又馨浦と稱し奉天省遼陽縣雙廟子人にして千八百九十二年(光緒十八年)を以て生る千九百十七年北京工業專門學校を出で更に千九百二十年北京交通部郵電學校を卒業す技術界に志し曾て吉林電話局工程師吉林省公署技士等を

經て東北電政監督處長春電話局主任より吉林電話局長に進み東北交通委員會委員たりし事あり其後奉天省公署技正に任ぜられ民政廳勤務たり康徳元年七月同署技佐に昇任す(奉天市商埠地政善里)

梁成柏

薦任四等、哈爾濱特別市公署理事官、總務處第一辦事處長 奉天省人

君は奉天省瀋陽縣人にして千八百八十八年(光緒十四年)を以て生る千九百十五年北洋工業專門學院を卒業す官界に志して各地に任官し後吉黑樺運局和龍鹽倉長となり次で東省特別區市政管理局秘書主任に任じたりしが大同二年哈爾濱特別市公署事務官に任ぜられ總務處第一辦事處長となり康徳元年七月同署理事官に昇任し以て今日に至る(哈爾濱特別市公署總務處内)

梁廷樞

前吉林省公署參議 奉天省人

君は又鈞市と稱し奉天省新民縣人にして千八百八十一年(光緒七年)を以て生れ早くより官界に入り各地に任官し會て吉林礦局局長たりし事あり千九百

三十二年滿洲國成立後吉林省公署參議となれり尙氏名と字の原音は Ting-hsu 及 Chun-fu なり(吉林市)

廖楚洲

薦任四等、司法部理官、行刑司保護科長、福建省人

君は又鳴章と稱し福建省閩侯縣人にして千八百八十九年(光緒十五年)を以て生る夙に日本に留學して關西大學法科を卒業す歸國後東三省法政學堂教員を経て後南下し安徽省廬江縣知事に任じ次で財政部秘書吉林延吉交涉署秘書等に歷任したる事あり大同元年法令審議會委員となり同二年司法部事務官に任ぜられ行刑司保護科長となる康徳元年七月同部理事官に昇任す(新京市西四道街)

廖飛鵬

黑龍江省公署參議 河南省人

君は又守仁と稱し河南省商城縣人にして千八百八十五年(光緒十年)を以て生れ夙に直隸高等巡警學堂を卒業す官界に入りて直隸縣知事に進み其後保定道尹陸軍軍法處長軍需處官等を経て黑龍縣長兼商埠市政局長齊昂鐵路總辦呼倫縣長等に歷任したりしが千九百三

十二年滿洲國成立後黑龍江省公署參議となれり尙氏名と字の原音は Liao Pei-peng 及 Shou-jen なり(哈爾濱市)

林延琛

簡任二等、官內府審査局長、憲法制度調査委員會委員、福建省人

君は又子猷と稱し福建省人にして千八百八十六年(光緒十二年)を以て生る夙に日本に留學し法政大學を卒業す歸國後司法部檢事を経て萬國博覽會總務處長より清皇室法律顧問國會秘書國憲起草委員會文書科長等に任じたる事あり千九百三十二年滿洲國成立後執政府審査官に任ぜられしが改稱により官內府審査官となり現に會計審査局長にして傍ら憲法制度調査委員會委員たり尙氏名の原音は Lin Yen-chen なり(新京市宮內府會計審査局内)

林鶴泉

吉林省公署顧問、吉林電燈廠長、滿洲セメント株式會社副社長、中東海林探木公司理事、哈爾濱セメント株式會社理事、吉林民生計會長、吉林省人

君は又仙舟と稱し吉林省長嶺縣人にして

林榮

勳二位、特任、最高法院長、憲法制度調査委員會委員、福建省人

君は又少旭と稱し福建省閩侯縣人にして千八百八十年(光緒十年)を以て生れ夙に日本に留學して千九百四年早稲田大學邦語政治科を卒業す歸國後清時代既に學務參事京師法政專門學校教務長京師大學堂法政科監督等に歷任したる事あり千九百十二年教育部專門教育司長に任じ翌年大理院推事となり後京師高等審判廳長を経て江蘇湖北各省の滿洲國成立するに及び最高法院長の重職に特任され憲法制度調査委員會委員たり康徳元年五月其功績により勳二位に叙せられ景雲章を賜はる尙氏名と字の原音は Lin Chi 及 Shao-hsu なり(新京市東三條通九電三五三〇)

林景仁

薦任四等、外交部理官、宣化司勳務長、福建省人

君は又小眉と稱し福建省漳州龍溪縣人にして千八百九十四年(光緒二十年)を以て生る夙に瑞士國に留學して日內

瓦大學を卒業す會て臺灣に於て林本源製糖會社監査役新高銀行監査役等實業界に關係したる事ありしが後滿洲に到り千九百三十二年滿洲國成立するや外交部事務官に任ぜられ政務司歐米科長となり康徳元年七月同部理事官に昇任し同年九月同部宣化司に兼務し以て今日に至る(新京市日本橋部)

林仰喬

薦任三等、奉天省公署理事官、總務廳統計科長、福建省人

君は福建省閩侯縣人にして千八百八十五年(光緒十一年)を以て生る清附貢生なり官界に志し會て奉天巡按使署科員を経て遼寧省政府第一科長前任職昇任次で地方維持會科長たりし事あり千九百三十二年滿洲國成立後奉天省公署事務官に任じ現に總務廳統計科長となり康徳元年七月同部理事官に昇任して今日に至る(奉天市大東門裡全王府胡同)

林尙海

油坊經營 關東州人

君は關東州前屯會傳家屯人にして千八百七十八年正月二十七日(光緒四年)を以て生る千八百九十五年本村私塾の修學成るや實業界に志して翌年余州に

て千八百六十年(清咸豐十年)を以て奉天省錦州に生れ弱年より官途に就き郭爾羅斯前旗荒地開放總辦に任じて吉林省嶺縣を創設し在籍す資産家たるを以て會て五十有餘箇の商舖に投資したる事あり其後民國國會議員に選ばれ千九百二十八年吉林省議會議長に任じ翌年東三省議會聯合會議長に推され千九百三十年東三省蒙旗處長に任じて南滿洲鐵道會社對張學良政府の鐵道交渉に盡瘁するところあり千九百三十一年中東海林探木公司理事に就任し吉林電燈廠長となる大同元年滿洲國建設に當り建國民衆總代表として活躍し國際聯盟調査團一行の來滿及報告發表に際しては國民代表となり建言抗爭克く建國の眞精神を世界に發表せり同年秋實業文化使節となり各地の代表者を率ひて渡日し朝野の有力者と接衝して歸滿大いに日滿經濟上の提携を唱導して合辦滿洲セメント同哈爾濱セメント二社を創設し共に重役となり現に吉林省公署顧問新京民衆生計會長たる外前記の各職に在り益々兩國の産業開發經濟提携の爲に力を致す尙氏名と字の原音は Lin Ho-kao 及 Hsien-ehou なり(吉林商埠地五緯路一九號電二二二四)

出で徳太成に入店見習となり實務に従事す次で千九百年鳳凰城洪興長に就職一層経験を積むところあり千九百三年大連に到り萬度長商號を開設經營業績を掲げたり千九百十二年十月油坊を設立し經營以て今日に至る信用厚く業務隆昌なり(大連市鹿島町三電五二一六)

林 善 齋 萬義長油坊經營 關東州人

君は關東州大連管内嶺前會人にして千八百七十九年五月十一日(光緒五年)を以て生る千八百九十六年本村私塾の修業成るや實業界に志して早くより大連に出で同地萬度長雜貨粉業商に入り業務に従事すること久しく大いに経験を積むところあり千九百二十二年自ら萬義長油坊を開設經營して信用厚く益々隆昌を致し以て今日に至る著名の實業家たり(大連市香取町三萬義長電四九八〇)

林 鈞 寶 舊任八等、監察院監察官、監察部勤務 關東州人

君は關東州旅順管内王家店會嶺泉寺人にして千九百二年(光緒二十八年)を以て生る夙に日本に留學して早稻田大

學政治經濟科を卒業す歸國後曾て東北交通大學教授たりしが後自治指導部員となり千九百三十二年滿洲國成立後監察院事務官に任ぜられ監察部勤務となり次で同院監察官となり以て今日に至る(新京市西北門外監察院監察部内電四二二六)

林 文 蔚 前吉林高等檢察廳長 奉天省人

君は奉天省海城縣人にして夙に吉林法政專門學校を卒業す早くより法曹界に入り各地の司法官に任じ千九百三十二年滿洲國成立するや擧げられて吉林高等檢察廳長の重職に任ぜられ後之を辭す(吉林市)

林 丙 炎 舊任二等、實業部理事官、經濟司林務科長、福建省人

君は又君毅と稱し福建省人にして千八百九十年(光緒十六年)を以て生る夙に日本に留學し千九百十四年東京帝國大學農學部林科を卒業し歸國後中日合辦札免探木公司總會計に就きたりし事あり千九百三十二年滿洲國成立後實業部事務官に任ぜられ同部總務司林務

科長たり康徳元年七月同部理事官に昇任し今日に至る(新京市)

林 庸 舊任七等、哈爾濱警察廳長、吉林省人

君は又文天と稱し吉林省永吉縣人にして千八百九十年(光緒十六年)を以て生る千九百十年吉林高等巡警學堂を卒業す軍警界に入り會て濱江警察廳第二署長を経て濱江公安局第一科長同公安局第三分局長等に歷任したる事あり現時哈爾濱警察廳警正に任じ南新警察署長たり(哈爾濱南新警察署内)

レ之部

冷 紹 伋 恒増利經營 山東省人

君は山東省蓬萊縣長山島人にして千八百七十三年(清同治十二年)を以て生る幼少より木村私塾に入りて修學し實業界に志す千八百八十八年金州に到り廣増盛に於て商務に従事し經驗するところあり千八百九十八年大連に出で支店恒増利設立の任に當り次で長春恒増利四平街恒増盛の開設經營をなし業績を掲げ信用厚く今日に至る(大連市松林町八恒増利電四八三六)

冷 殿 甲 陸軍中校、第三軍管區司令部附 奉天省人

君は又鼎臣と稱し奉天省昌圖縣人にして千九百二年(光緒二十八年)を以て生る夙に東北講武堂を卒業す會て奉天騎兵第三旅中尉に進み次で第八十八團連長上尉より東北邊防軍公署少校たりし事あり千九百三十二年滿洲國成立後

厲 通 維 舊任八等、黑龍江省視學、教育廳勤務 黑龍江省人

君は又作新と稱し黑龍江省呼蘭縣人にして千九百一年(光緒二十七年)を以て生る夙に日本に留學して千九百二十七年廣島高等師範學校を卒業す歸國後黑龍江教育廳秘書を経て省立第一師範學校長に任じ後同省教育廳督學たりし事あり千九百三十二年滿洲國成立するや黑龍江省視學に任じ以て今日に至る(齊々哈爾市)

黎 遐 齡 奉天海龍地方法院東豐分庭推事 河北省人

君は又喬年と稱し河北省通縣人にして千八百八十四年(光緒十年)を以て生る夙に青島高等專門學校法科を卒業す司法界に入り天津第二檢察廳檢察官を経て同地方審判廳推事となり次で奉天開原鐵嶺各地法院推事たりし事あり後奉天海龍地方法院東豐分庭推事に任じ

黎 汝 霖 黑龍江高等法院第一分院地方庭長 廣西省人

君は又煦蒼と稱し廣西省鐘山縣人にして千八百八十八年(光緒十四年)を以て生る夙に廣西省立法政學堂別科を卒業す會て長州地方檢察廳檢察官より黑龍江龍江地方法院審判廳推事となり福建第一高等檢察分廳檢察官同首席檢察官を経て再び滿洲に至り奉天鐵嶺地方法院第一高等審判分庭監督推事に任じ次で奉天第一高等審判分庭推事奉天瀋陽地方法院庭長たりしが現時前記の職にあり(黑龍江省綏化縣城)

廉 紹 亭 粮棧代理店慶裕支店配人、河北省人

君は河北省寧河縣人にして千八百八十一年(光緒七年)を以て生る早くより實業界に志して商業に従事すること多年興順粮棧並孟印深孟謙唐等の出資に係る粮棧代理店慶裕支店配人たり同店は千九百二十六年開設の新舖なるがよく實上年額約六十一萬元と云ふ新民縣に慶裕支店錦縣車站に慶裕粮棧支店を有す(奉天市皇姑屯中街路北慶裕支店内)

口之部

呂 榮 襄

勳二任、特任、北滿特別區長官兼哈爾濱特別市長
奉天省人

君は又維東と稱し奉天省撫順縣人にして千八百九十年(光緒十六年)を以て生れ夙に江蘇省立法政專門學校を卒業す奉天辯護士公會長同省議會副議長等歴任し千九百二十二年華府會議に際し東三省代表として渡米したり又翌年露國に赴き歸國して露支會議東省委員長奉天交通會議委員奉露會議委員長等に任ぜらる千九百二十年東支鐵道理事より理事長に昇任し千九百二十七年東支鐵道督辦となりしが翌々年露支紛争に會ひ辭任したり千九百三十二年滿洲國成立後鮑觀澄の後を承け哈爾濱市長兼東省特別區市政管理局長に任ぜられしが康德元年七月北滿特別區長官兼哈爾濱特別市長となる同年四月訪日視察團代表として渡日するところあり又同年五月其功績により勳二位に叙せられ景雲章を賜はる尙氏名と字の原音は「Jung-luan 及 Wei-tung たり(哈爾濱市)」

呂 宜 文

簡任二等、外交部事務官、通商司長
關東州人

君は又儀文と稱し關東州人にして千八百九十七年(光緒二十三年)を以て生る夙に日本に留學して明治大學を卒業す會て亞細亞製粉會社に入り後山城鎮電燈公司經理より奉天日報記者を経て東北航空軍司令部勤務主任兼秘書長たりし事あり千九百三十二年滿洲國成立後外交部事務官に任じ通商司署司長より康德元年七月通商司長に任じ簡任二等に昇叙されて今日に至る尙同元年六月滿洲帝國籌辦陸國賑災委員會の成るや其幹事長として盡すところあり(新京市大經路頭條路三號電三六二一)

呂 訓 堂

福成公經營
山東省人

君は山東省牟平縣人にして千八百八十九年(光緒十五年)を以て生る幼少より本村私塾に於て修學すること五箇年後實業界に志して芝罘に出で實務に従事し經驗を積むこと十箇年大いに得るところあり滿洲に於て身を立てんと

路 爰 平

陸軍上校、第三軍管區司令部秘書長
黑龍江省人

君は黑龍江省龍江縣人にして千八百九十七年(光緒二十三年)を以て生る夙に北京法政大學を卒業す會て武陽縣知事に進みしが轉じて直隸三十五師執法處長となり次で騎兵第十七師秘書長兼江警備司令部秘書たりし事あり滿洲國成立後陸軍上校に任ぜられ黑龍江警備司令部秘書長に補せらる康德元年軍管區成立により改稱以て今日に至る(黑龍江省城)

路 之 淦

簡任二等、黑龍江省公署秘書長、總務廳勤務、浙江省人

君は浙江省餘杭縣人にして千八百九十六年(光緒二十二年)を以て生れ千九百十九年上海復旦大學を卒業す早くより官界に志し千九百二十年陝北榆林補運分局長を経て兩陝鎮守使本署參謀官西榆林道尹公署顧問武陟縣長等を歴任

し其後轉じて奉直魯聯軍第三十五師執法處長東北第三第四方面軍本部秘書黑河警備司令部秘書等となり後黑龍江省署秘書に任ぜられしが千九百三十二年滿洲國成立後黑龍江省署秘書官に任じ後秘書長に昇任今日に至る(哈爾濱市)

魯

綺 薦任七等、奉天省公署事務官、警察廳司法科長、奉天省人

君は又俠民と稱し奉天省懷德縣人にして千九百一一年(光緒二十七年)を以て生る千九百二十三年北京警官高等學校正科を卒業す會て長春第五警察署署長に進み各地の警察官を経て東三省會警察局副局長に任じたる事あり千九百三十二年滿洲國成立後奉天省公署事務官に任じ現時同署警務廳司法科長たり(奉天市商埠地二經九緯路)

婁 學 謙

黑龍江省高等檢察廳長、吉林省人

君は又靜庵と稱し吉林省賓縣人にして千八百九十一年(光緒十七年)を以て生れ夙に北京朝陽大學法律科及北京司法講習所を卒業す法曹界に入り各地に任官して黑龍江省龍江地方檢察廳檢察長に累進し後同廳高等法院檢察廳主席

婁 堂 階

棧棧代理店天泰號出資者、河北省人

君は河北省深縣人にして千八百七十五年(光緒元年)を以て生る夙に實業界に志して多年商業に従事し特産物取扱に經驗あり現時棧棧代理店天泰號の出資者たり同店は前清康熙年間開設に係る老舖にして河北省東鹿縣人王逢春を支配人としてよく活躍し實上年額約六十八萬元を算す市中日本商及南滿各地を販路とし通遼に支店天泰德を有す(奉天市大北門裡路東天泰號内)

盧 元 善

簡任二等、黑龍江省事務官、實業廳長、奉天省人

君は奉天省金州縣人にして千八百八十七年(光緒十三年)を以て生れ夙に日本に留學し千九百八年宮城縣農學校を卒業す歸國後南京書院農科教員を経て山城鎮裕華電氣公司董事四洮鐵路局保線課通遼縣墾植公司總理等を歴任し軍

盧 康 海

吉林省葦河縣長、吉林省人

君は又潔と稱し吉林省永吉縣人にして千八百九十二年(光緒十八年)を以て生る千九百八年吉林軍官學校を卒業す夙に官界に入り會て吉林省依蘭縣長に任ぜられたる事ありしが後轉じて現時同省葦河縣長たり(吉林省葦河縣)

ワ之部

康徳元年七月同署理事官に昇任し勲業處勤務を命ぜられ以て今日に至る(新京市大経路興安總署勲業處内電四二三)

和田三郎 薦任六等、熱河省公署事務官、警務廳警務科長
廣島縣在籍

君は廣島縣人にして明治十九年を以て生る同三十七年小學教員養成所を出て多年教職にありしが其後朝鮮總督府に任官して警視に進みたりし事あり大同三年滿洲國の招聘により熱河省公署事務官に任ぜられ警務廳警務科長となる(熱河省公署警務廳内)

和博薩敦 薦任六等、興安總署理事官、勲業處勤務
內蒙古人

君は又逸菴と稱し蒙古郭爾羅斯前旗人にして千八百九十年(光緒十六年)を以て生る千八百九十七年本旗崇正私塾を卒業す早くより任官し會て長春蒙旗徵租局委員を経て長春蒙旗徵租局會辦同旗徵租局長等に歴任したる事あり千九百三十二年滿洲國成立後興安總署事務官に任じ政務處財務官長となりしが

若林佐太郎 〔從五位勳五等〕
薦任五等、安東國境警察隊長
長野縣在籍

君は長野縣人にして明治十六年を以て生る同三十八年陸軍士官學校を卒業す大正七年西伯利亞に出征し後憲兵少佐に昇任同十四年豫備役に編入せらる滿洲國成立後聘せられて游動警察隊長に轉補せらる(安東市大和橋通二丁目)

渡部益次 薦任八等、濱江稅務監督署事務官
監察科長
宮城縣在籍

君は宮城縣人にして明治二十年を以て生る早くより稅捐事務に従事し會て稅務監督局員を経て同屬官となり次で仙臺稅務署長心得に進み昭和七年稅務監督局事務官に任じ仙臺監督局勤務たりしが千九百三十二年滿洲國成立するや聘せられて濱江稅務監督署監察科長に任ぜられ今日に至る(哈爾濱市馬家

渡邊源五郎 中央陸軍訓練處經理
養成部長
東京府在籍

君は東京府人にして明治十九年を以て生る夙に東京外國語學校獨語選科を出で更に陸軍經理學校を卒業す會て陸軍經理學校教官たりしが後二等主計正となり第十第十二各師團經理部長陸軍一等主計正に進みたり滿洲國成立するや同國政府の招聘により中央陸軍訓練處經理養成部長に任ぜらる(奉天市中央陸軍訓練處内)

渡邊正作 薦任八等、參議府秘書局秘書官
三重縣在籍

君は三重縣人にして明治三十三年を以て生る夙に南滿洲鐵道會社見習學校を卒業し同社員となりしが大同元年滿洲國成立と共に其招聘に應じ參議府秘書局秘書官に任ぜられ今日に至る(新京市六馬路參議府秘書局内電四〇二三)

昭和九年十月二十八日發行
第十版人事興信錄別冊附錄



編輯者 東京市麹町區丸ノ内二丁目十八番地
發行所 內尾直昌

印刷者 東京市京橋區木挽町二丁目十三番地
外山勇太郎

印刷所 東京市京橋區木挽町二丁目十三番地
山中商會印刷所

發行所
取扱所

株式會社 人事興信所

丸善株式會社

東京市麹町區丸ノ内二丁目十八番地 (東京驛前昭和ビル内)
電話丸之内(一)一〇四四番・三八六八番
自〇五九五番・至〇五九八番
振替口座東京六〇〇八〇番
東京市日本橋區通二丁目
電話日本橋(四)二一三一番(代表)
振替口座東京五〇五番
支店及出張所 東京(神田、三田、早稲田、丸ビル)横濱、大阪、神戸、京都、福岡、名古屋、仙臺、札幌、京城